

秋田県立博物館

年 報

平成 27 年度

秋田県立博物館



はじめに

秋田県立博物館は、今年、開館40周年を迎えました。昭和50年5月、人文・自然の展示を統合した本館と、分館の「旧奈良家住宅」（重要文化財）からなる総合博物館として開館、平成8年4月には、「秋田の先覚記念室」と「菅江真澄資料センター」を開設し、平成16年4月には、人文・自然・企画の各展示室を一新するとともに、体験学習の場を提供する「わくわくたんけん室」などの新しい機能を付加してリニューアルオープンをし、今日に至っています。

大きな節目を迎えるにあたって、本館がめざす5年後の未来像として、「秋田県立博物館中期ビジョン2015～2019」を策定しました。ビジョンでは、「すべてを県民と共に」をキャッチコピーとして、あらゆる活動の根本に据え、事業を展開して参ります。そして、次の7つを具体的な重点目標として設定しました。

- ◎ 出張展示・出前講座・出前授業を積極的に実施します
- ◎ 展示の新しい見方を提案し、共に創り上げる県民参加型の展示企画を推進します
- ◎ もっと見たい、参加してみたい企画を創出します
- ◎ 小中高生のための「未来の学芸員養成講座」を開設します
- ◎ 調査研究の成果を一般公開します
- ◎ 地域や類似施設、研究機関等との連携を一層進め、地域の活性化に貢献します
- ◎ 県民と共に秋田を探り、秋田の魅力を発信します

この5年間で、これらの目標を実現するとともに、秋田県の素晴らしい自然と、数多くの民俗文化、食文化、伝統などの財産（たから）を、「県民と共に」守り、育み、発信していきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

秋田県立博物館

館長 佐々木 人 美

目次

■ 施設の概要	
Ⅰ 博物館のあゆみ	4
Ⅱ 施設・設備	5
Ⅲ 展示室	9
Ⅳ 組織	13
Ⅴ 職員	14
■ 事業の概要	
Ⅰ 平成27年度博物館運営方針	16
Ⅱ 平成27年度博物館事業計画	16
Ⅲ 平成26年度事業報告	20
1 調査研究活動	20
2 資料収集管理活動	24
3 展示活動	25
4 教育普及活動	32
5 広報出版活動	34
6 学習振興活動	36
7 館外活動	37
■ 資料	
Ⅰ 収蔵資料の概要	40
Ⅱ 歴代館長、特別展等一覧	41
Ⅲ 秋田県立博物館条例	42
Ⅳ 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）	43
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）	43
Ⅴ 入館者に関する資料	44

施設の概要

I 博物館のあゆみ

- 昭和42年1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
- 47年3月 県立博物館設立構想完成
- 49年11月 定礎式
- 50年3月 秋田県立博物館条例制定
5月 開館式（5日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
- 7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）
- 54年1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
- 55年5月 秋田県博物館等連絡協議会発足
- 59年9月 開館10周年記念式典
- 63年9月 本館屋根防水工事完了
- 平成3年8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工
- 4年11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成
- 5年7月 増築工事着工
- 7年8月 増築工事完成
- 8年4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
- 9年8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置
- 11年4月 入館料が無料となる
- 14年4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
- 15年10月 改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
- 16年3月 展示工事完成
4月 リニューアルオープン
- 17年12月 開館30周年記念式典
- 18年3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
- 20年7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される

Ⅱ 施設・設備

設置場所	秋田市金足鳩崎字後山52	(株)中田建築設備
敷地面積	14,885.9m ²	(株)ユアテック秋田支社
建築面積	6,237.93m ²	サン電気工業(株)
建築延面積	11,946.2m ²	展示製作実施設計 (株)丹青社
建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	展示製作委託施工 (株)乃村工藝社

【建築工事】

建築費	2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	昭和48年7月
竣工	昭和49年11月
開館	昭和50年5月
工事業者	建築設計 KK安井建築設計事務所 建築施工 三井建設KK 設備施工 KK三晃空調 東北電気工事KK 展示設計施工 KK丹青社

【増築工事】

建築費	1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	平成6年7月
完成	平成8年2月
増設開館	平成8年4月
工事業者	建築設計 KK安井建築設計事務所 建築施工 三井建設KK 設備施工 KKユアテック 日の出施設工業KK KK三和施設 日本オーチスエレベータKK 展示設計施工 KKアートシステム

【NMP事業】

事業費	2,087,400千円 {総事業費(含調査事務費、 展示製作委託費)}
着工	平成14年3月
完成	平成16年3月
リニューアル開館	平成16年4月29日
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 (株)林工務店 (株)清水組JV 設備施工 大民施設工業(株) (株)あたとJV

設 備

〈電気設備〉	
(1) 受電電圧	3φ6,600V 50HZ
一般照明用	450KVA (150×3)
一般動力用	550KVA (300×1) (250×1)
非常照明用	50KVA
非常動力用	150KVA
(2) 発電機設備	発電電圧 3φ6,600V 50HZ 200KVA
エンジン	ディーゼル 230KVA
(3) 蓄電池設備	108V 200AH 10HR 54セル
(4) その他幹線・動力・電灯用設備一式	
〈警戒(報)設備〉	
(1) レーダー警報設備	(展示室・収納庫) 方式、パッシブインフラレッド方式 レーダー検出 10ヶ所 ドアスイッチ 10ヶ所
(2) I・T・V監視設備	監視用カメラ 20台 (展示室14台 収蔵庫4台 1Fホール1台 外1台)
(3) 一般・非常放送設備	ロッカ型防災アンプ 容量 200W 非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)
〈空調換気設備〉	
(1) 冷凍機設備	(備熱水槽方式 容量780m ³) 直焚吸収式冷温水機 冷却能力 1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基 ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統) 冷却能力 312KW 1基 空冷チリングユニット(夜間運転系統) 冷却能力 132KW 1基
(2) ボイラー設備	貫流ボイラー(暖房・加湿用) 熱出力 940KW (換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m³ 2基

(3) 空気調和設備 (10系統)

冷却能力合計 897.8KW

加熱能力合計 524.6KW

(4) 換気設備一式

給気量 (7系統) 合計 25,850m³/h

排気量 (9系統) 合計 28,360m³/h

(5) 空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所

防火戸47ヶ所

(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓24ヶ所 屋外消火栓24ヶ所

ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)

二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)

〈その他の設備〉

(1) 荷物用エレベータ 容量2,500kg

45m/min 1基

(2) 乗用エレベーター 積載量750kg

11人乗45m/min 2基

(3) 電話設備 局線5回線 内線49回線

(4) 衛生設備 給排水設備一式

(5) ガス設備及び避雷針設備

(6) ガス燻蒸消毒設備

建築予算

単位：千円

区分	44~46年度	47年度	48年度	49年度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	-	-	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	-	-	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

増築予算

単位：千円

区分	3~4年度	5年度	6年度	7年度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	-	-	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	-	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	-	-	-	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

NMP21事業予算

単位：千円

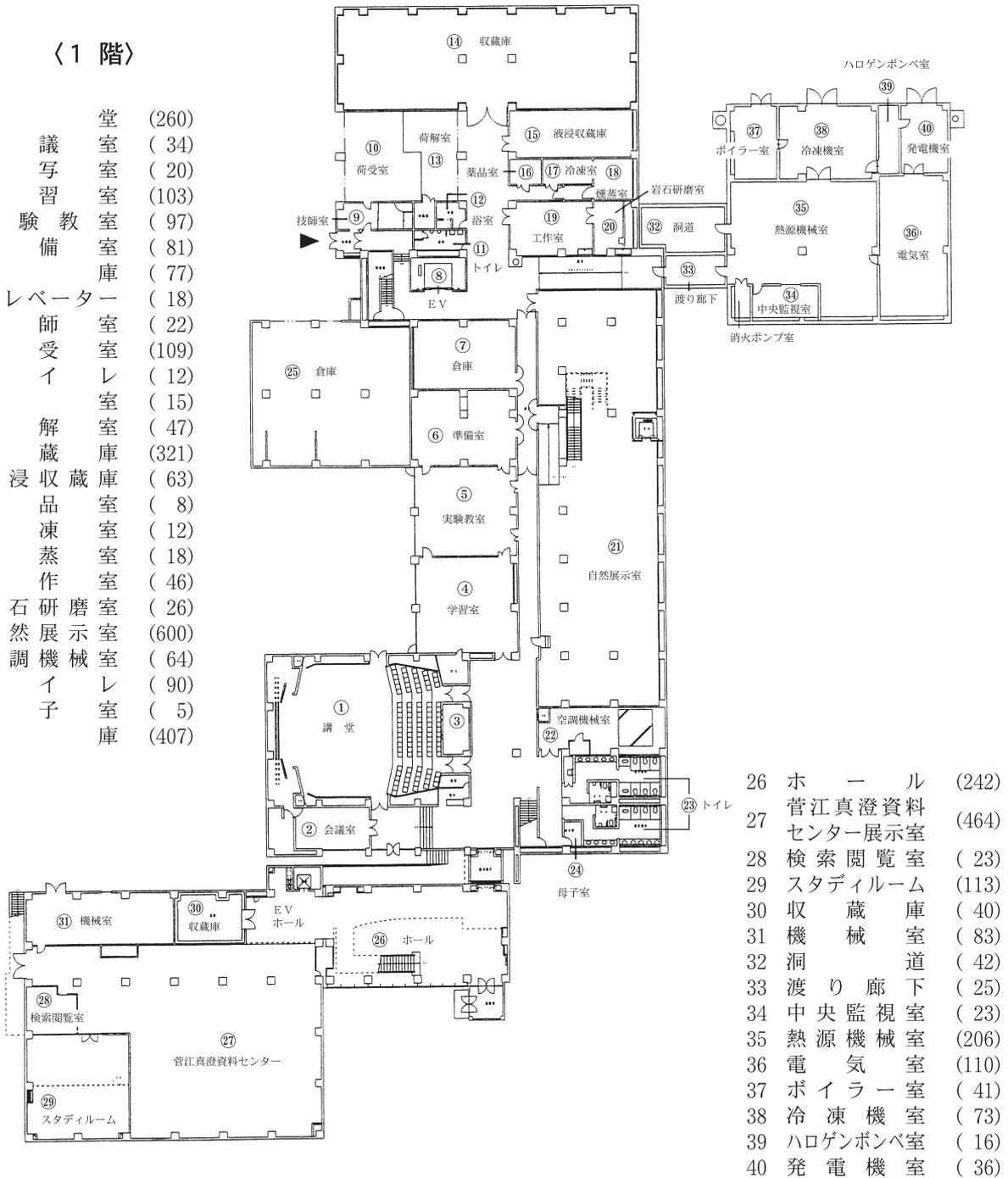
区分	11年度	13年度	継続費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	-	-	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	-	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

一各階平面図一

() 内の数字は面積 (単位㎡)

〈1階〉

- 1 講堂 (260)
- 2 会議室 (34)
- 3 写真室 (20)
- 4 学習室 (103)
- 5 実験教室 (97)
- 6 準備室 (81)
- 7 倉庫 (77)
- 8 エレベーター (18)
- 9 技師室 (22)
- 10 荷受室 (109)
- 11 トイレ (12)
- 12 浴室 (15)
- 13 荷解室 (47)
- 14 収蔵庫 (321)
- 15 液浸収蔵庫 (63)
- 16 薬品室 (8)
- 17 冷凍室 (12)
- 18 燻蒸室 (18)
- 19 工 作 室 (46)
- 20 岩石研磨室 (26)
- 21 自然展示室 (600)
- 22 空調機械室 (64)
- 23 トイレ (90)
- 24 母子室 (5)
- 25 倉庫 (407)



- 26 ホール (242)
- 27 菅江真澄資料センター展示室 (464)
- 28 検索閲覧室 (23)
- 29 スタディールーム (113)
- 30 収蔵庫 (40)
- 31 機械室 (83)
- 32 洞 道 (42)
- 33 渡り廊下 (25)
- 34 中央監視室 (23)
- 35 熱源機械室 (206)
- 36 電 気 室 (110)
- 37 ボイラー室 (41)
- 38 冷凍機室 (73)
- 39 ハロゲンボンベ室 (16)
- 40 発電機室 (36)

部門別床面積(㎡)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

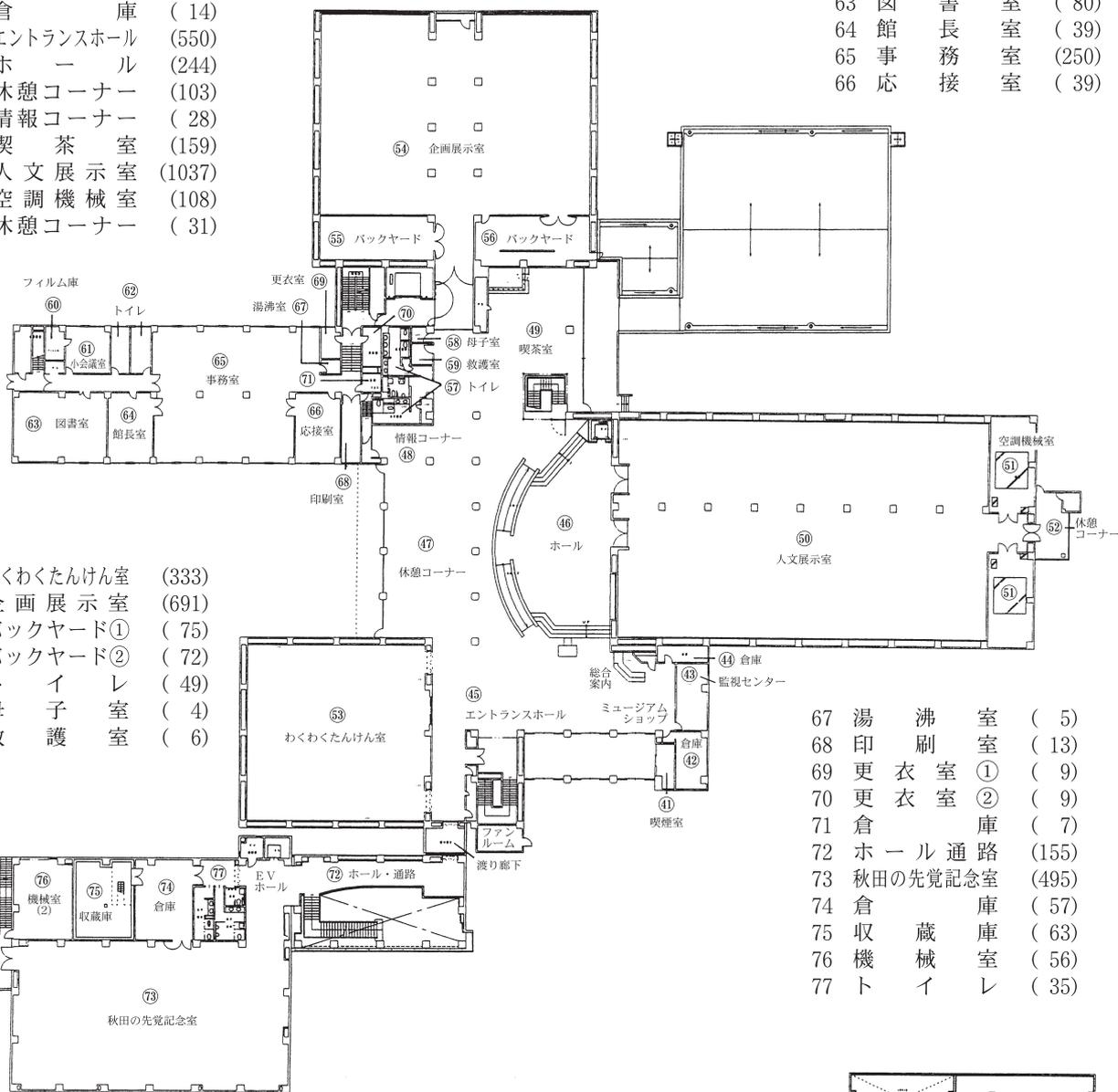
階別面積(㎡)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2階〉

- 41 喫煙室 (8)
- 42 倉庫 (23)
- 43 監視センター (25)
- 44 倉庫 (14)
- 45 エントランスホール (550)
- 46 ホール (244)
- 47 休憩コーナー (103)
- 48 情報コーナー (28)
- 49 喫茶室 (159)
- 50 人文展示室 (1037)
- 51 空調機械室 (108)
- 52 休憩コーナー (31)

- 60 フィルム庫 (9)
- 61 小会議室 (26)
- 62 トイレ (29)
- 63 図書室 (80)
- 64 館長室 (39)
- 65 事務室 (250)
- 66 応接室 (39)



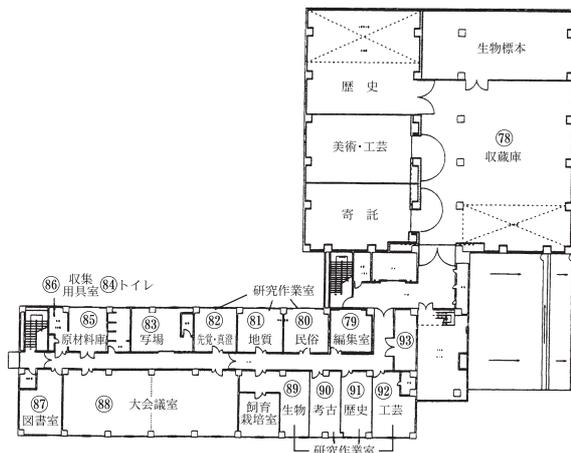
- 53 わくわくたんけん室 (333)
- 54 企画展示室 (691)
- 55 バックヤード① (75)
- 56 バックヤード② (72)
- 57 トイレ (49)
- 58 母子室 (4)
- 59 救護室 (6)

- 67 湯沸室 (5)
- 68 印刷室 (13)
- 69 更衣室① (9)
- 70 更衣室② (9)
- 71 倉庫 (7)
- 72 ホール通路 (155)
- 73 秋田の先覚記念室 (495)
- 74 倉庫 (57)
- 75 収蔵庫 (63)
- 76 機械室 (56)
- 77 トイレ (35)

〈3階〉

- 78 収蔵庫 (840)
- 79 編集室 (27)
- 80 研究作業室(民俗) (28)
- 81 " (地質) (28)
- 82 "(先覚・真澄) (28)
- 83 写場・暗室 (38)
- 84 トイレ (15)
- 85 原材料庫 (24)

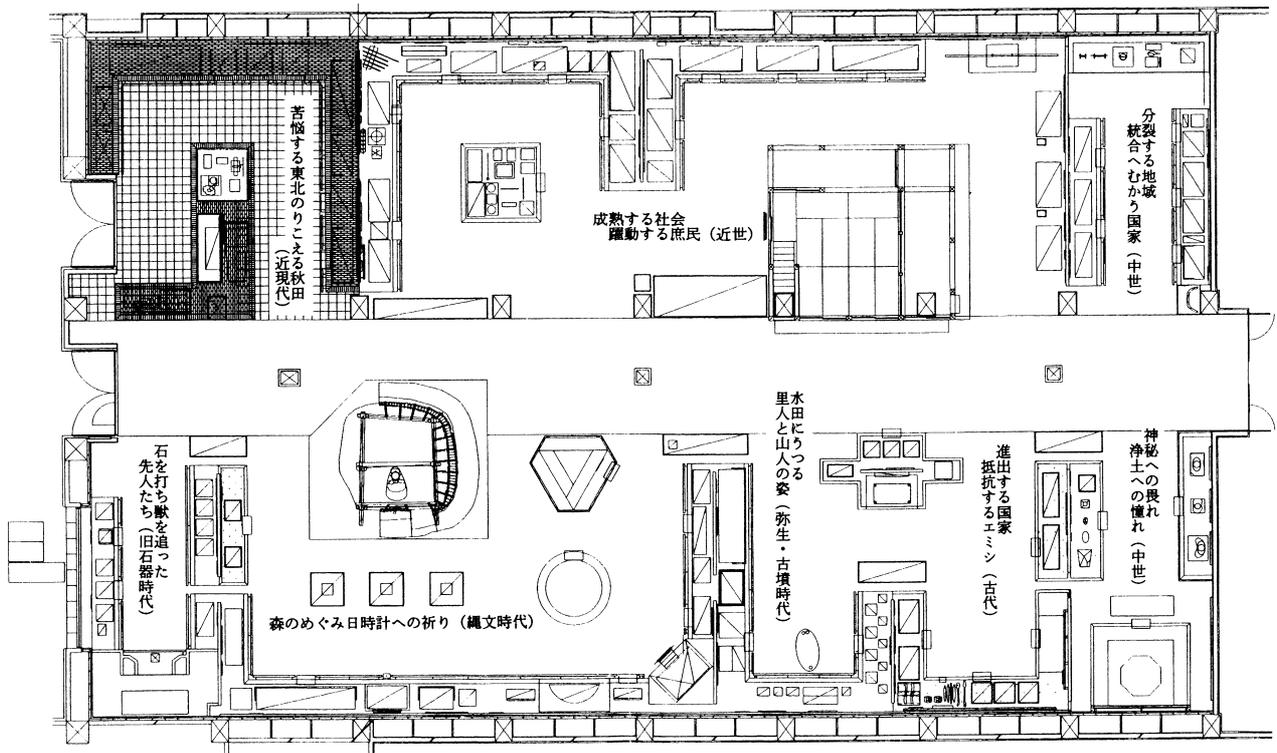
- 86 収集用具室 (10)
- 87 図書室 (34)
- 88 大会議室 (158)
- 89 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 90 研究作業室(考古) (27)
- 91 " (歴史) (27)
- 92 " (工芸) (39)
- 93 倉庫 (19)



Ⅲ 展 示 室

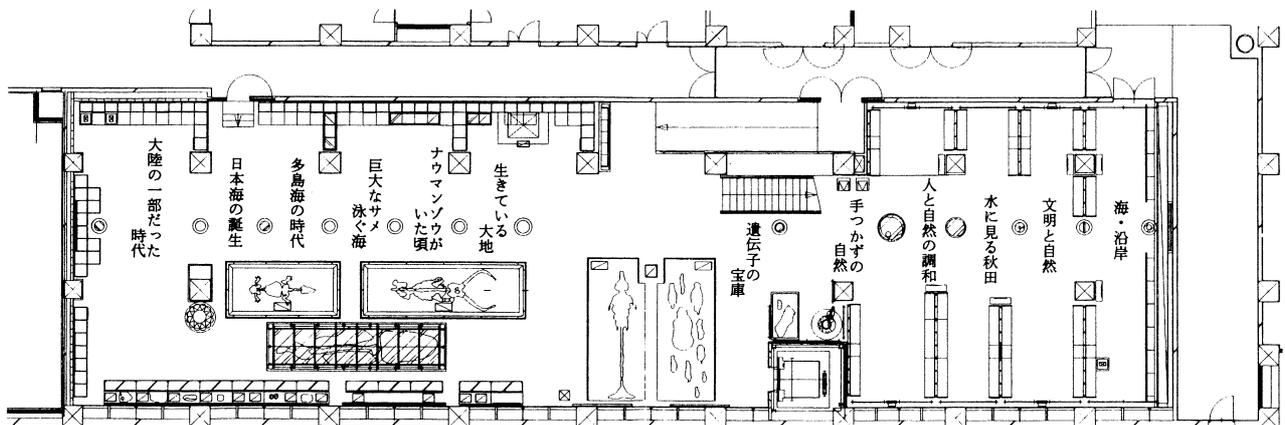
◆人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

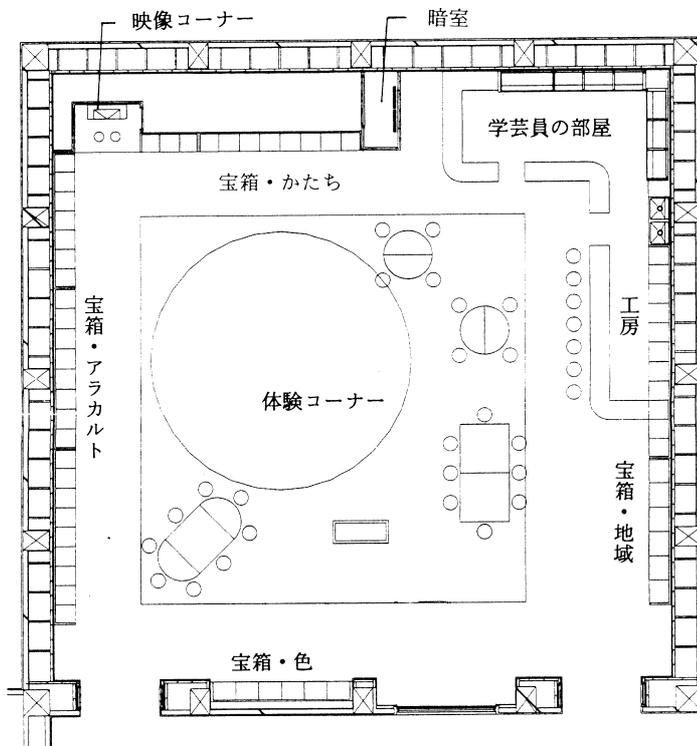


◆自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。



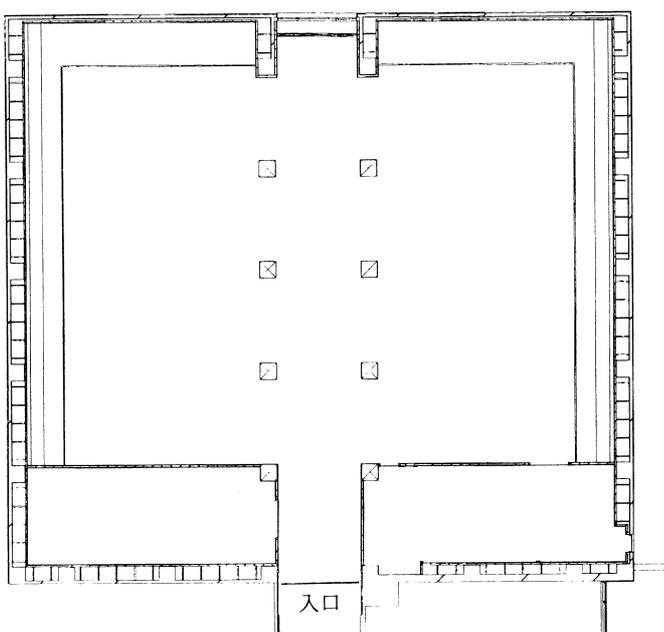
◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動をしながらか秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。パソコンや図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。



◆ 企画展示室



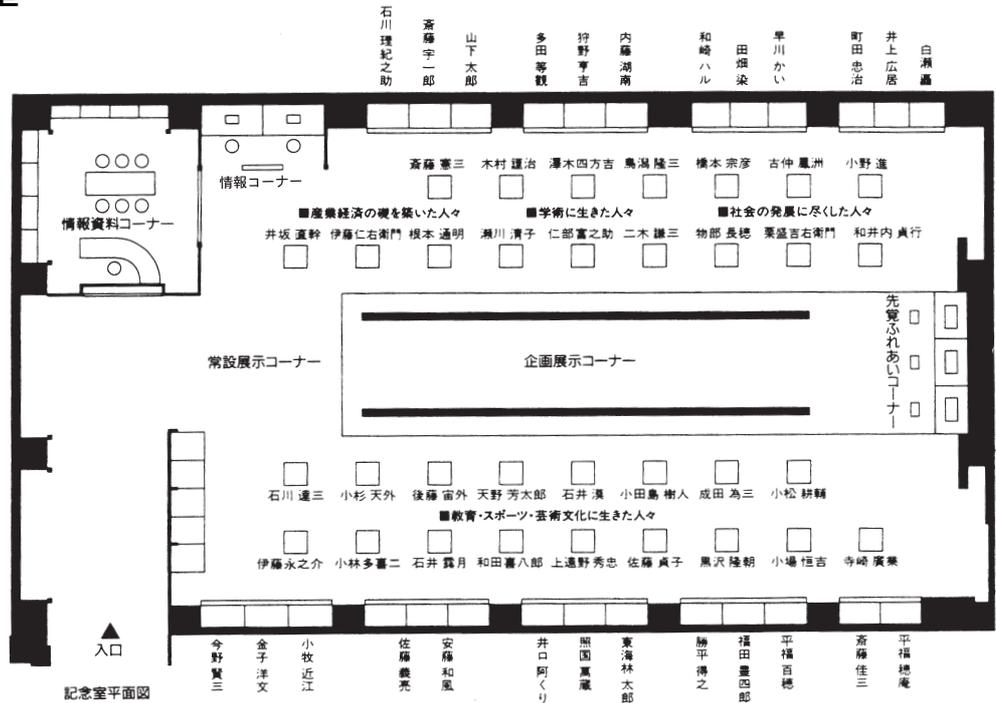
従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。



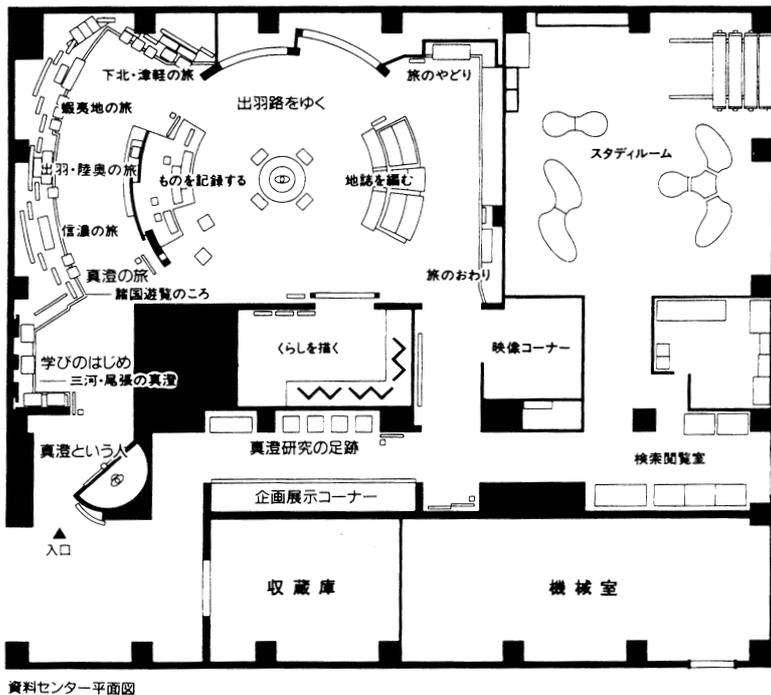
◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



◆ 菅江真澄資料センター



江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディールーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

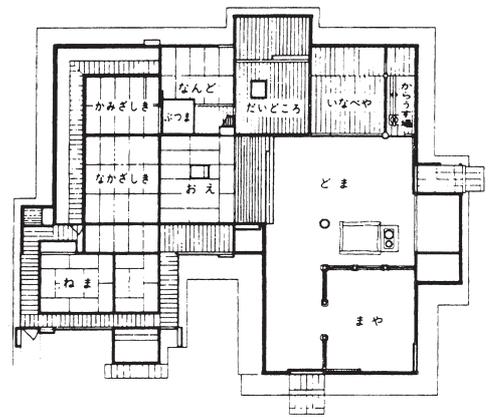
旧所有者 奈良恭三郎(昭和44年5月寄贈)

昭和40年5月29日 重要文化財(建築面積 459.08㎡)

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間(1751~1763年)9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治7年に建造された、土蔵造の建物

座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物

米蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

明治天皇北野小休所(移築)……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

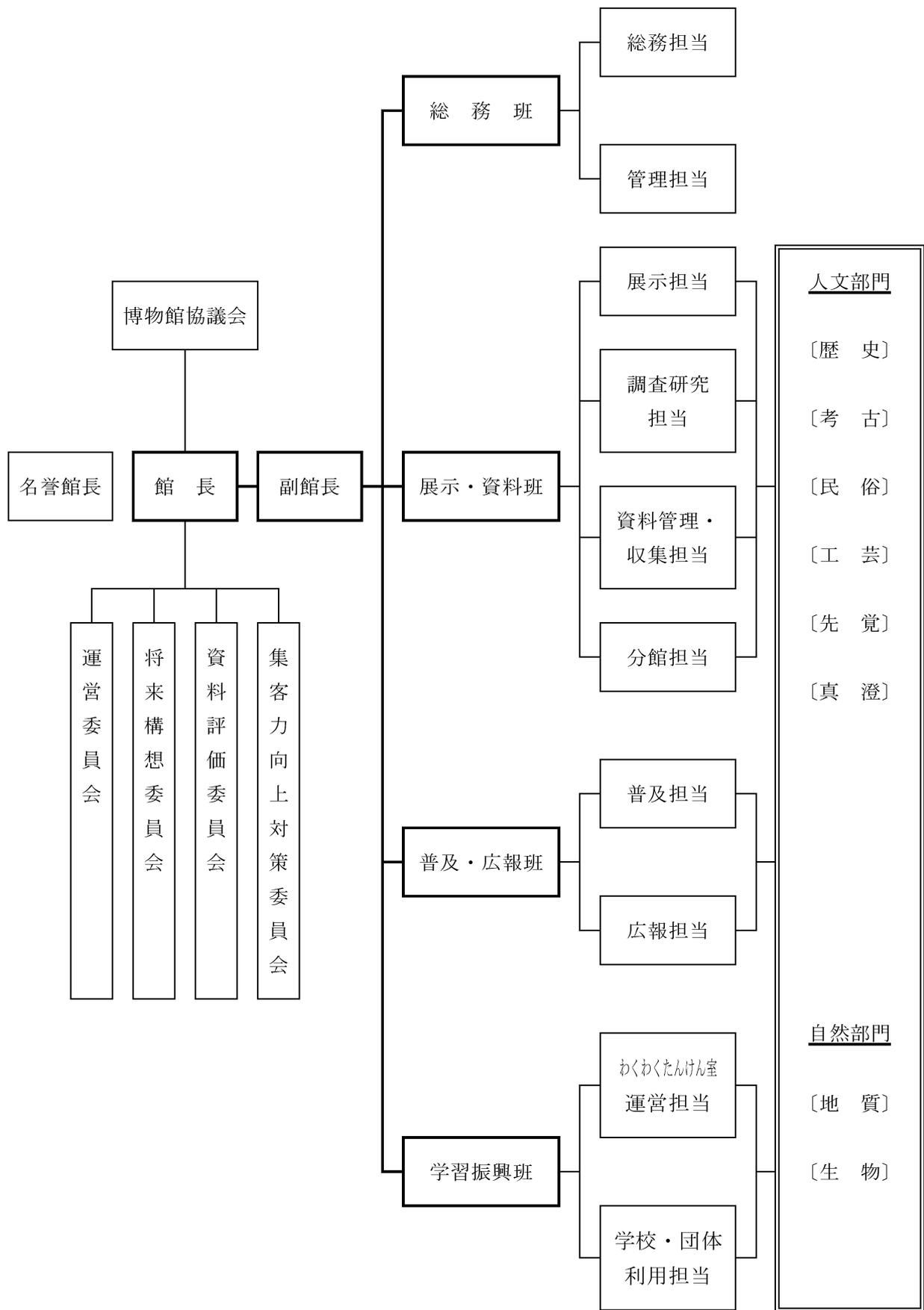
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物

文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

IV 組 織



V 職 員

班名	職 名	氏 名	各班の分掌と部門担当
	館 長	佐々木 人 美	総括
	副 館 長	野 口 俊 温	館長の補佐、各班の総括、将来構想に関すること、防火責任者
総務班	副主幹 (兼)班長	石 井 達 美	班の総括 危機管理に関すること
	主 査	青 山 香 織	服務、給与に関すること 歳入予算に関すること
	主 事	田 中 豊 人	管理、営繕に関すること 歳出予算に関すること
	技 能 主 任	高 橋 直 人	空調設備運転に関すること、施設設備管理に関すること
	技 能 主 任	大 川 一 成	公用車運転に関すること、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事 (兼)班長	梅 津 一 史	班の総括 生物部門に関すること
	主任学芸主事	伊 藤 真	調査研究、展示企画、考古部門に関すること
	学 芸 主 事	松 山 修	資料管理、展示企画、真澄部門に関すること
	学 芸 主 事	畑 中 康 博	展示企画、資料管理、歴史部門に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	新 堀 道 生	調査研究、展示企画、歴史部門に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	丸 谷 仁 美	展示企画、資料管理、民俗部門に関すること
普及・広報班	主任学芸主事 (兼)班長	船 木 信 一	班の総括 生物部門に関すること
	学 芸 主 事	藤 原 尚 彦	広報、普及、連携事業、工芸部門に関すること
	学 芸 主 事	柏 倉 良 明	広報、普及、研修、歴史部門に関すること
	学 芸 主 事	池 端 広 樹	普及、広報、研修、先覚部門に関すること
	学 芸 主 事	小野寺 康	普及、広報、研修、民俗部門に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	吉 川 耕太郎	普及、広報、連携事業、考古部門に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	鈴 木 秀 一	普及、広報、研修、連携事業、生物部門に関すること
学習振興班	主任学芸主事 (兼)班長	渡 部 均	班の総括 地質部門に関すること
	学 芸 主 事	工 藤 伸 也	学校団体利用、地質部門に関すること
	学 芸 主 事	斉 藤 洋 子	わくわくたんけん室の運営、工芸部門に関すること
	学 芸 主 事	浅 利 絵里子	学校団体利用、先覚部門に関すること

[非常勤職員]

夏井 順一 (ボイラー)
 國安 民男 (同)
 五十嵐 一彦 (守衛)
 石黒 司 (同)
 林 信久 (同)
 松橋 敏雄 (工 作)

小 玉 奈々子 (展示解説・案内)
 佐藤 はづき (同)
 皆川 歩美 (同)
 木村 七緒子 (同)
 加賀谷 洋子 (同)
 朝野 恵美 (同)
 斉藤 花穂 (同)
 山田 楓 (同)
 三浦 朋子 (同)
 木村 真実 (同)

宮本 康男 (学芸補助)
 三浦 和恵 (同)
 佐々木 由衣 (同)
 藤井 千里 (同)
 小原 久美子 (同)

事業の概要

I 平成27年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民と共に歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

- 1 本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。
- 2 県民のニーズに応える展示・教育活動等の在り方を追求する。
- 3 郷土秋田の自然や文化、歴史などに親しむことができる環境整備を図る。
- 4 県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、ボランティア団体などとの連携を図る。

II 平成27年度博物館事業計画

1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
 - ア 県民の郷土理解・ふるさと教育に資する調査研究を計画的に推進する。
 - イ 調査研究報告会のさらなる充実を図る。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
 - ア 中期的展望に立った計画的な資料の収集・整理及び収蔵スペースを確保する。
 - イ 収蔵及び展示資料のデジタルアーカイブ化推進とデジタル化されたデータの効果的な活用をさぐる。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
 - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を企画する。
 - イ 打って出る博物館として、出張展示を本格的に実施する。
- (4) 各展示室の機能を検証し、展示室同士を有機的に結ぶ効果的利用に努める。
 - ア 外部評価の検証をもとに展示室の特色を明確にする。
 - イ 各展示室の有機的なつながりを構築する。
- (5) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
 - ア 館内ボランティア組織などと連携して、博物館教室やミュージアムトーク等の充実を図る。
 - イ 博物館活動について、効果的に広報することにより、一層の普及に努める。
- (6) 「わくわくたんけん室」「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」の一層の充実を図る。
 - ア 博物館における体験活動についての情報・資料の収集とアイテムの開発に努める。
 - イ 秋田の先覚及び菅江真澄の企画コーナー展の充実により、入室者増に努める。

2 活動計画

調査研究

◇部門研究の推進

- ・考古 秋田県域における石器石材資源の調査
原始・古代期における境界としての秋田について
- ・歴史 守屋家資料の研究
松本家資料の研究
- ・民俗 県内の公民館結婚式事情
秋田県内の箕製作技術に関する調査
秋田県内の妖怪の記録について
- ・工芸 秋田県内におけるミノ・ケラ類の製作技術
秋田県内における編組品の研究

- ・地質 秋田県の第四紀火山の噴出物と火山地形に関する調査～特に鳥海山及び寒風山について～
秋田県内の化石産地現況調査
- ・生物 鳥海山の生物相についての基礎調査
秋田県産小蛾類の標本と分布資料の収集
秋田県に生息する希少動物の生態調査
- ・真澄 内田文庫の整理と公表
- ・先覚 石川理紀之助の事績について

- ◇共同研究、地域研究、博物館学的研究の推進
- ・ハンズオン用標本の作成について

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇資料のデータベース

◇収蔵庫管理の推進

◇燻蒸消毒作業

- ・収蔵庫
- ◎燻蒸期間 6月29日(月)～7月6日(月)
- ・小型燻蒸機の運用

展示

◇展示活動

- ・企画展示室における企画展、特別展
企画展「石斧のある世界」
4/25(土)～6/21(日)
企画展「博物館の挑戦状」
7/25(土)～8/23(日)
特別展「徳川将軍家と東北」
9/12(土)～10/25(日)
企画展「新着・収蔵資料展」
11/14(土)～4/3(日)
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
「理紀之助と貞直～農聖の底に流れるもの～」
9/26(土)～11/29(日)

- ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
「真澄の旅～信濃と越後と～」 7/18(土)～8/30(日)
「内田文庫の貴重資料」 10/24(土)～12/20(日)
「奥羽永慶軍記と真澄」 3/19(土)～5/15(日)
- ・ふるさとまつり広場
七夕絵どうろう 6/9(火)～7/24(日)
秋田の土人形 9/1(火)～11/1(日)
正月儀礼～豊作を祝う・豊作を祈る～
11/3(火)～1/31(日)
ひな人形・押し絵 2/2(火)～4/5(日)

教育普及

◇博物館教室等

- 1 「真澄に学ぶ教室」講読会
4/25(土) 5/23(土) 6/27(土) 7/25(土)
8/22(土) 10/24(土) 11/28(土) 12/26(土)
1/23(土) 2/27(土)
- 2 プロバーダー養成講座2015
4/26(日) 5/3(日) 5/10(日) 8/2(日)
10/11(日) 11/1(日) 12/6(日) 1/24(日)
- 3 楽しいしぼり染め -中級コース-
5/10(日) 5/19(火)~5/22(金)のいずれか
1日 6/3(水) 6/24(水) 6/25(木)のい
ずれか1日、合評会 7/29(水)
- 4 楽しいしぼり染め -研究コース-
5/10(日) 5/31(日) 6/21(日)
8/2(日)他に2日、合評会10/25(日)
- 5 化石と地層の観察会
現地観察(安田海岸) 5/24(日)
学習会 5/31(日)
- 6 小泉潟公園でカエル調査 6/28(日)
- 7 「真澄に学ぶ教室」講演会 第1回 7/11(土)
- 8 考古学を学ぶ
7/18(土) 8/29(土) 9/12(土)
10/17(土) 11/14(土) 12/12(土)
- 9 昆虫教室 ~採集と標本作り~
採集日 7/19(日)
標本作り 8/23(日)
- 10 夜の昆虫観察会 7/25(土)
- 11 親子で楽しむ藍染め体験 8/5(水)
- 12 子どもと大人の土器作り教室
土器整形 8/9(日)
焼成作業 8/23(日)
- 13 絵筆で描く縄文土器 8/18(火)
- 14 アイの生葉で染める 8/19(水)
- 15 幕末秋田藩講話会
8/19(水) 9/9(水) 9/16(水)
9/30(水) 10/14(水)
- 16 三浦館・旧奈良家住宅合同見学会 8/29(土)
- 17 石器づくり教室 9/20(日)
- 18 里山の植物観察会 9/27(日)
- 19 昆虫同定技術入門 10/4(日)
- 20 民俗学入門講座
10/10(土) 11/7(土) 12/5(土)

- 21 「真澄に学ぶ教室」講演会 第2回 10/11(日)
- 22 縄文人のなりわいと心 10/31(土)
- 23 古文書の整理と修復の体験会
11/4(水) 11/18(水)
- 24 ゼロからはじめるワラ仕事
11/4(水) 11/11(水) 11/18(水) 11/25(水)
12/2(水) 12/3(木) 12/4(金)
- 25 「秋田の先覚記念室」講演会(企画コーナー展付
帯事業) 11/8(日)
- 26 初めての古文書解説
1/10(日) 1/17(日) 1/24(日)
1/31(日) 2/7(日) 2/14(日)
- 27 科学とは何か-考古学からの視点- 2/20(土)
- 28 名誉館長館話(前期)-歴史と文化を語る-
5/15(金) 6/19(金) 7/17(金)
- 29 名誉館長館話(後期)-秋田からの連想-
9/11(金) 10/9(金) 11/13(金)

◇展示付帯事業

- ・企画展 石斧のある世界 展示解説
- ・企画展 博物館の挑戦状 展示解説
- ・特別展 徳川将軍家と東北 展示解説
- ・企画展 新着・収蔵資料展 展示解説

◇県庁出前講座

◇県内博物館等類似施設との連携

- ・秋田県博物館等連絡協議会
- ・秋田市内文化施設連絡会議

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ

- ・博物館実務実習
- ・教職10年経験者研修

◇研修

- ・教員長期社会体験研修員への指導

▶ 広報・出版

◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施
展示・イベント広報
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善
ホームページ、フェイスブックページの充実
プレスリリースの充実
広報資料、出版物等の管理
館内掲示物の管理

◇出版物の刊行・配布

- ・年報 平成27年度 A 4判 44頁 1,000部
- ・博物館ニュース No.161・162
A 4判 8頁 各2,300部
- ・秋田県立博物館研究報告第41号
A 4判 100頁 600部
- ・広報紙「真澄」 No.33 A 4判 8頁 1,500部
- ・真澄研究第20号 A 5判 100頁 500部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
展示解説資料
A 4判 8頁 1,000部
- ・楽しいしぼり染めパンフレット
A 4判 8頁 2,000部
- ・展示ポスター、広報チラシ
企画展「石斧のある世界」
企画展「博物館の挑戦状」
特別展「徳川将軍家と東北」
企画展「新着・収蔵資料展」

(6) 学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

- 1 一般及び団体利用への支援・指導
- 2 体験アイテムの保守管理
- 3 室内全体の保守管理
- 4 消耗品等の在庫管理と発注
- 5 体験アイテムの開発と改善
- 6 季節アイテム、季節イベントの計画と運営
- 7 ボランティア等の研修活動への支援
- 8 わくわくたんけん室の運営方法の検討

◇学校団体による博物館利用の支援

- 1 セカンドスクール利用の支援・指導
- 2 セカンドスクール利用の促進
- 3 出前授業の利用促進
- 4 学校団体利用数の集計と報告
- 5 職業体験、インターンシップの対応

▶ 分館・重要文化財旧奈良家住宅

◇分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成27年4月1日（水）から平成28年3月31日（木）まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部公開の希望に応えるために平成27年8月29日（土）に公開し学芸職員が解説を行う。

Ⅲ 平成26年度事業報告

1 調査研究活動

調査研究活動は部門研究、共同研究、地域研究、博物館学的研究という区分で進めてきた。学芸職員は年度当初に調査研究テーマを設定し、年度末には業務報告の一環として調査研究報告会を実施している。

〈部門研究〉主に部門に関連する調査や研究が進められた。

〈博物館学的研究〉来館者の動線調査などについて研究が行われた。

〈地域研究〉男鹿南秋地域を対象として、全部門が調査

研究を行い、結果を地域展「男鹿・南秋の自然と文化」で公開した。なお、地域展は平成元年以来25年振りの開催である。

「研究報告第40号」には、部門調査や展示等に関連した論文・短報が10件まとめられた。

なお、調査研究報告会は昨年度から館内における開催だけでなく、学芸職員の中から6名を選抜し、秋田県生涯学習センターで一般公開した。

部門研究

◇考古

「秋田県における旧石器・縄文時代の石材資源開発」

これまで本県では調査研究があまり進められていない旧石器時代・縄文時代の石器原料となる珪質頁岩について、三種町周辺・男鹿半島・雄物川下流域で産状調査を行った。遺跡内出土石器と現在、河原や海浜、段丘礫層中で採集できる原石との比較検討を通して、先史人が原石を獲得した場所を推定することを目的とした調査である。結果、地域や時代によって遺跡と原石採集地との距離等に違いがあることが予察された。平成27年度も継続して実施する予定である。平成26年度の成果は研究報告会で発表した。

◇歴史

「近世武家資料の調査」

平成27年度特別展「徳川将軍家と東北」の開催にむけて、公益財団法人徳川記念財団、久能山東照宮などが所蔵する徳川将軍家の関連資料、東北諸大名に関する資料について調査した。

「男鹿地域の港湾開発史」について

船川港湾事務所と秋田県農林水産部水産漁港課が所有する資料について追跡調査を行った。地域展においては、船川・北浦の港湾設計図、船川築港当時の工事風景写真、昭和23年米軍撮影のものと同平成16年国土地理院撮影の航空写真を提示し、港の拡張が一目でわかるようにした。また明治22年作製の「輯製二十万分の一図」の男鹿島・弘前・秋田を合成し、交通機関発達前の男鹿・南秋地域の様子を示した。

「守屋家資料の調査」

昭和50年の開館以来、未整理のままに収蔵されている守屋家資料の整理を行った。整理作業は、平成26年度か

ら活動を開始した「秋田県立博物館友の会 古文書整理ボランティア」のメンバーと共に行った。整理作業と並行して嘉永6年（1853）1月「御用日記」を翻刻した。翻刻文は研究報告第40号に載せた。

◇民俗

「寄贈資料整理～箕および箕作り道具～」

秋田市太平地区在住の田口召平氏が長年収集している県内外の箕および箕作り道具約120点の整理作業を行った。あわせて田口召平氏に協力いただき、材料採集から箕製作までの一連の作業についての映像収録を行った。資料の詳細については研究報告第40号に報告した。

「秋田県内の民間療法や伝承薬に関わる調査」

平成25年度からの調査を継続して秋田県内の自然療法・その他民間療法に関わる文献記述の収集と聞き取り調査を行った。また男鹿・南秋地域のガツチャキ症とその治療に用いられた薬について調査した。結果の一部を平成26年度企画展にて展示した。

◇工芸

「秋田県内におけるミノ・ケラ類の製作技術」

ワラ細工については、これまで履物類を中心に調査を進めてきたが、平成26年度からは対象を被服類に移し、特にミノ・ケラ類の製作技術に焦点を当てた調査を始めた。平成26年度は、男鹿南秋地区と県南地区の計7館で38点の資料について、製作技術の細部にわたる調査を行うとともに画像データとして記録に残し、現時点での調査内容をまとめることができた。今後は、調査域を拡げ、秋田県全体及び県内各地域の製作技術の特徴としてまとめたい。

「秋田県内における樹皮による編組品の研究」

編組品については、新素材の代替品がとって代わりつつあること、更に作り手が減少していることから、近い将来その製作技術が失われる可能性がある。ゆえに編組品の素材と製作技術をデータとして記録・保存することを目的に調査を開始した。平成26年度は由利本荘地域の資料館3カ所、合計13点の編組品についての調査した。今後も県内の編組品に対して調査を進めていく。自然の中で生み出された人々のもの作りの知恵を、編組品を通して考えることで、失われつつある技と知を後世に伝えることを目標としたい。

◇生物

「秋田県に生息する希少動物について」

男鹿市・秋田市のカササギ、栗駒山のハコネサンショウウオについて、調査を実施した。カササギは秋田県内では2例目の確認だが、初めて長期滞在しており、全国的な分布拡大に伴って注意が必要とされる鳥である。なお、記録の詳細は研究報告及び調査研究報告会（館内、一般向け）で報告した。

「秋田県産小蛾類の標本と分布資料の収集」

3年前から継続して、県内における採集を行っている。平成26年度は地域研究をかねて男鹿半島での採集も行った。収集した小蛾類の標本は、企画展「レピドプテラ」で分類の展示に活用した。

「佐々木明夫氏蛾類標本コレクション（シャクガ科）の整理とデータ整備」

佐々木明夫氏（秋田市）から寄贈される秋田県産を主としたシャクガ科蛾類標本約9,000点の同定とデータベース化を行っている。平成26年度までに約1/3について作業を終えた。同定にあたっては高橋雅彌氏（秋田市、元当館職員）の協力を得て進めている。

「秋田のスギについて」

秋田スギは、本県の「県の木」に制定されるとともに、古くから建材等に広く利活用されている。しかしながら、その生理・生態等に関する科学的性質については未解明なところが多いことから、秋田スギの科学的な性質等を理解するために基本的な調査を行った。

「海岸漂着物調査」

男鹿半島と秋田市沿岸の砂浜を歩き、そこに流れ着いている漂流物を調査した。今回調査した漂流物は、工業製品などであり、6月から10月まで定期的に巡回し、漂

流物を採取あるいは写真に撮影し、情報を収集した。採取した物については、平成27年4月より自然展示室の企画コーナー展で展示を行った。

◇地質

「男鹿半島の植物化石調査」

地域調査の一環として男鹿半島の植物化石を調査した。化石収集の専門家五井昭一氏に同行していただき、3カ所を確認した。門前の海岸で採集したものは、これまで阿仁合型植物化石として知られていたが、地層の年代が阿仁合型植物化石より古いことが近年確認され更なる調査が必要となる。また、台島の海岸で採集した西黒沢層の植物化石はこれまで植物化石の産出が少なかった西黒沢層の環境を知るうえでの大きな手がかりとなることが期待される。

「男鹿・南秋地区の露頭・化石産地等現況調査」

平成26年度は地域調査の一環として、以下の各地で露頭の現況調査を行った。

- ・八郎潟町の筑紫岳採石場に露出する森山火山岩類。
- ・潟上市昭和豊川のアスファルト滲出露頭。
- ・五城目町の富田や町村周辺の笹岡層化石産地。
- ・五城目町杉沢の女川層魚化石産地。
- ・男鹿市門前・潮瀬崎周辺の門前層の火成岩類。
- ・男鹿市安田海岸の鮪川層、潟西層の露頭。

調査結果の一部は企画展「男鹿・南秋の自然と文化」で展示するとともに、館内調査研究報告会で報告した。

◇秋田の先覚記念室

「多田等観に関する資料調査」

約100年前苦難の末にチベット入りし、ダライラマ13世の下での修行を経て帰国した、チベット仏教研究者多田等観に関する資料調査を行った。その後、遺族より新たに膨大な資料の寄付があり、その分類・整理にあたった。

また、多田が帰国後に行った講演について取り上げ、その内容や傾向等について考察し、館内調査研究報告会で報告した。

◇菅江真澄資料センター

「真澄引用の『人見日記』について」

真澄の地誌に引用された「人見日記」が、大館市立中央図書館蔵「人見宇右衛門覚書」であることはすでに明らかにされている。しかし、資料全体の翻刻はこれまでなかった。本研究では、資料全体を翻刻するとともに、

本資料と「人見日記」の引用が見られる真澄の地誌と随筆、それに一部の書写が見られる《風の落葉三》とのかかわりを明らかにした。また、付箋や書き込みから、真崎勇助写本の底本が、真澄の手沢本であることがわかった。資料解題を含めた翻刻を、『真澄研究』第19号に掲載した。

▶ 地域研究

◇地域研究

当館では昭和50年の開館以来、鹿角市をはじめとして、各地で地域研究を行っている。今回はこれまで地域研究を行っていなかった男鹿市、潟上市及び南秋地域について、平成24年度より3年間かけて地域研究を実施した。本地域は人文、自然の両面において興味深い研究テーマを持った地域であり、各部門で下記のテーマを設定して調査・研究を実施した。その成果については平成26年度の企画展「地域展 男鹿・南秋の自然と文化」で公表した。

今回の地域研究では、地域の研究者・機関の協力を得て調査を進めたり、複数部門で共同して展示に結びつけたりする部分もあったが、全体を総括するテーマ設定など、地域研究の進め方についての検討は今後も継続する必要がある。

- (考古) 男鹿半島の石器石材資源
- (歴史) 男鹿市域の古文書調査
男鹿地方の港湾開発史について
- (民俗) 八郎潟の漁労用具について
男鹿・南秋地域のくすりにについて
- (生物) 男鹿半島の鳥と魚、大潟村の鳥と魚
男鹿半島の昆虫類
男鹿半島の植物・植生
- (地質) 男鹿南秋地域の化石産状について
- (工芸) 男鹿南秋地域のワラ細工技術について
－履物類を中心として－
- (先覚) 男鹿半島の先覚者－中川重春、古仲鳳洲、
天野芳太郎を中心として－
- (真澄) 男鹿南秋地域の板碑

▶ 博物館学的研究

◇博物館学的研究

「観覧者の利用実態調査報告」

博物館はテーマに沿った資料を収集・保管・研究・教育（展示等）を行う機能を持った社会教育施設であり、近年は「地域における生涯学習推進のための中核的な拠点」と位置づけられている。特に、展示は博物館資料と観覧者の接点をなし、生涯教育の場を提供する観点から、県民に「博物館に行こう」という気持ちを起こさせるよ

うな工夫と働きかけが必要になってきている。また、展示そのものも重要であるが、来館者が快適に過ごせる空間を作り、来館者のニーズや満足度の把握に努めることも求められている。このような工夫改善に必要な情報は、観覧者の利用状況の実態把握である。今回の調査では、来館者の展示室での行動を観察して記録し、どのような行動を取っているのかを分析した。

▶ 館内調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

館内調査研究報告会を平成27年1月26日（月）に大会議室で開催した。別記の公開報告会の開催に伴い、本会は平成26年度から館員参加の会に復した。

- 1 秋田県におけるニセマイコガ科の知見ー現状と今後の課題ー 梅津 一史
- 2 秋田のスギについて 永井 元
- 3 男鹿半島の植物化石について 大森 浩
- 4 男鹿・南秋地域の露頭現状の調査より（森山火山岩類ほか） 渡部 均
- 5 秋田県に長期滞在しているカササギ 船木 信一
- 6 来館者調査報告 鈴木 秀一
- 7 秋田県内における編組品について 斉藤 洋子
- 8 今年度寄贈の箕資料について 丸谷 仁美
- 9 秋田県立博物館友の会古文書整理ボランティア活動開始！ 畑中 康博
- 10 秋田県内におけるミノ、ケラ類の製作技術 藤原 尚彦
- 11 民間療法の調査について ～「ガッチャギ」を例に 浅利絵里子
- 12 「男鹿図屏風」の成立事情と佐竹氏 新堀 道生
- 13 多田等観はかく語りき ～昭和38年秋田市での講演会録音から～ 今川 拓

- 14 明治期の築港の様子 船川港湾事務所アルバムから 戸島 毅
- 15 秋田県域の旧石器～縄文時代における居住形態と石器石材資源の構造 吉川耕太郎
- 16 真澄引用の「人見日記」（真崎文庫）について 松山 修

◇調査研究報告会

研究成果の公開を図るため、今年度から一般公開の形式で報告会を開催することとした。平成27年3月14日（土）生涯学習センター3階講堂で開催した。参加人数は93人であった。報告内容は下記のとおり。なお報告者は館内調査研究報告会の報告から館長・副館長が選定した。

- 1 観覧者の利用実態調査報告 鈴木 秀一
- 2 秋田県域の旧石器～縄文時代における居住形態と石器石材資源の構造 吉川耕太郎
- 3 田口召平氏の箕製作技術 丸谷 仁美
- 4 秋田県に長期滞在しているカササギ 船木 信一
- 5 秋田県立博物館友の会古文書整理ボランティア活動開始！ 畑中 康博
- 6 「男鹿図屏風」の成立事情と佐竹氏 新堀 道生

▶ 研究報告等の発行

◇『研究報告』第40号

- 秋田県に長期滞在しているカササギの記録 船木 信一
- 秋田県立小泉瀉公園の地衣類 山本 好和・浅利絵里子 他
- 男鹿市宮沢海岸で採集した蛾類 梅津 一史
- 秋田県田沢湖産出黒曜石の岩石学的特徴・形成年代と瀉前・黒倉B遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地推定 吉川 耕太郎 他
- 田口召平氏寄贈資料～箕および箕作り道具～ 丸谷 仁美
- 企画展「秋田のくすり今昔物語」展示報告 浅利絵里子
- 秋田の先覚記念室企画コーナー展「ゲシェーになった男・多田等観～日本人が見たチベット～」展示報告 今川 拓
- 名誉館長館話実施報告抄 新野 直吉

- 守屋家資料の整理ー秋田県立博物館友の会 古文書整理ボランティアの発足と共にー 畑中 康博
- [翻刻] 守屋家資料「御用日記」（嘉永六年一月） 畑中 康博 他

◇『真澄研究』第19号

- 「古代と北に関心深くー菅江真澄随筆連想ー」 新野 直吉
- 「講演記録 真澄のまなざしを考えるーあきた遺産の再評価ー」 石井 正己
- 「講演記録 菅江真澄が見た異形の神々」 大衆 和正
- 「翻刻・解題 『人見宇右衛門覚書』」 松山 修

2 資料収集管理活動

寄付や購入、委託製作などで新たに登録された資料は、7,681点である。資料収集については、予算の関係で計画を立てにくい状況にある。

資料の貸出は県内外資料館・博物館・学校団体等に18件、特別利用は資料の写真掲載を中心として105件あった。

また、平成25年に公開したスマートフォン、タブレット端末用のアプリケーション「秋田県立博物館デジタル収蔵庫（秋田県博HD）」へは新たに110点の資料を追加し、計268点を公開した。

平成26年度収集資料一覧

部門	資料名	数量	受入区分	
工芸	川連塗 片口	1	寄付	
	古伊万里染付茶碗	1	寄付	
	紫根染札入 他	3	寄付	
	額 他	2	寄付	
歴史	大部家家紋入り塗箱	1	寄付	
	金足村適産調図	1	寄付	
	ゲペール銃	1	寄付	
	熊谷曉家資料	1	寄付	
	昭和35年度保線要覧 他	3	寄付	
	鉄道関係資料	542	寄付	
	秋田湾開発事業関係資料	40	その他	
	鉄道関係資料	31	寄付	
	菅生家資料	1	寄付	
	砂小沢出湯証文（寛政4） 他	7	寄付	
	幟旗 他	3	寄付	
	ヘッドマーク 他	33	その他	
	考古	黒曜石（春山地区） 他	15	寄付
土偶頭部		1	寄付	
民俗	天神人形	1	寄付	
	土人形	17	寄付	
	ケラ 他	25	寄付	
	二重トビ 他	5	寄付	
	蓑 他	8	寄付	
	謄写版印刷機 他	3	寄付	
	薬用植物	53	寄付	
	蓄音機 他	7	寄付	
	千代紙	78	寄付	
	振り袖 他	6	寄付	
	除草機等農具 他	9	寄付	
	恵比寿・大黒像	1	寄付	
	写真引き伸ばし機	2	寄付	
	上皿棹ばかり	1	寄付	
	火事装束 他	8	寄付	
	生物	維管束植物標本	89	寄付
		シロフクロウ	1	委託製作
		植物標本	222	寄付
		ニホンザリガニ	82	採集
		魚類等標本	25	寄付
昆虫標本		524	寄付	
植物標本		1	寄付	
魚類等アクリル封入標本		9	委託製作	
地質		魚の化石	7	寄付
		鯨の化石	1	寄付
	八郎潟の完新統産貝化石	268	採集	
	男鹿市安田海岸産貝化石	7	採集	
先覚	男鹿半島潟西層釜谷地相産貝化石	3,741	採集	
	手フート印刷機 他	3	寄付	
	書（島地黙雷） 他	10	寄付	
	硯 他	5	寄付	
	多田等観関係資料	1,784	寄付	
	合計（件数）	7,690	(50)	

平成26年度資料収集状況

平成27年3月末日現在の資料総数（ ）は平成26年度分

区分	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	137	626	18	0	0	3,698 (0)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	5,834 (8)	1	13	0	0	13,219 (8)
歴史	5,125	2,952 (590)	113	184	0	73 (73)	8,447 (663)
考古	245	2,158 (16)	31	190	0	0	2,624 (16)
民俗	2,280	7,107 (224)	120	36	4	0	9,547 (224)
生物	17,345	74,492 (861)	7,711 (10)	36	1,650 (82)	0	101,234 (953)
地質	3,556	2,838 (8)	1,408	18	7,645 (4,016)	0	15,465 (4,024)
先覚	131	4,908 (1,802)	12	0	0	2	5,053 (1,802)
真澄	143	1,746	11	300	0	0	2,200 (0)
合計	39,528 (0)	102,197 (3,509)	10,035 (10)	803 (0)	9,299 (4,098)	75 (73)	161,937 (7,690)

平成26年度館蔵資料貸出状況

目的別

貸出先	県内外別			目的別				
	県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等	3	2	5	4	1	0	0	5
教育機関	大学	0	0	0	0	0	0	0
	高等学校	2	0	2	0	0	2	2
	中学校	0	0	0	0	0	0	0
	小学校	2	0	2	0	0	2	2
その他の	0	0	0	0	0	0	0	0
研究所・文化団体	2	0	2	2	0	0	0	2
出版報道機関	0	1	1	0	0	0	1	1
都道府県	0	0	0	0	0	0	0	0
市町村	5	1	6	5	1	0	0	6
個人	0	0	0	0	0	0	0	0
計	14	4	18	11	2	4	1	18

平成26年度資料特別利用状況

利用者	県内外別			目的別						
	県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他
博物館	都道府県立	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市町村立	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
企業	出版	6	26	32	30	0	0	1	0	1
	映像	2	4	6	0	5	1	0	0	0
	T V	8	2	10	2	8	0	0	0	0
	その他	3	4	7	4	0	1	0	2	0
教育機関	大学	1	3	4	2	0	1	0	1	0
	その他	1	3	4	0	0	3	0	0	1
都道府県	7	2	9	0	1	1	0	3	2	2
市町村	6	1	7	2	1	2	0	1	0	1
個人	25	1	26	12	1	2	0	1	4	6
計	59	46	105	52	16	11	0	9	6	11

部門別

部門	利用数	利用内容					
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	その他
工芸	2	0	2	2	0	0	0
考古	2	1	2	0	0	0	1
歴史	29	1	26	15	1	0	12
民俗	15	2	12	5	3	0	5
生物	2	0	1	1	0	0	0
地質	2	0	2	2	0	0	0
先覚	14	1	7	7	3	0	3
真澄	41	1	39	31	1	0	9
その他	0	0	0	0	0	0	0
計	107	6	91	63	8	0	30

※利用内容は重複があるので、実際の利用数より多い。
 ※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者数の合計とが異なっている。

燻蒸消毒および虫・菌害管理

燻蒸消毒は平成26年9月1日(月)～9月8日(月)に、酸化プロピレン製剤(商品名アルプ)を使用し、3階収蔵庫のうち生物・民俗・歴史・美術・工芸・寄託と真澄収蔵庫を燻蒸した。

小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により、寄贈資料や借用資料の搬入時に使用した。26年度の稼働回数は15回であった。

3 展示活動

26年度の特別展は「菅江真澄、旅のまなざし」を秋に、企画展は春、夏、冬に各1回実施した。特別展は、国民文化祭あきた2014開催記念とし、県外からの来館者にも好評を得た。

菅江真澄資料センターでは3回、秋田の先覚記念室では1回の企画コーナー展を実施。人文・自然展示室の可

変展示は11回、ふるさとまつり広場では4回の展示を行った。広場ではこの他に特別展関連展示として写真展を実施した。

また、27年度から本格実施する出張展示を試行したが、予想以上に依頼が多く、13件の展示を行った。展示数の合計は37本で開館以来最も多いものとなった。

企画展ほか

◇企画展「魅了する色と意匠～あきたの染めと織り～」平成26年4月26日(土)～平成26年6月15日(日)

<展示概要>

本企画展では、秋田の暮らしの中で育まれた数多い伝統的な工芸品の中から、染めや織りについて、色や意匠へのこだわり、製作技術などに焦点を当てながらその魅力を紹介した。

また、当館では伝統的な絞り染めの技術の保存・伝承や生涯学習の振興をめざして博物館教室「楽しいしぼり染め」を実施している。平成24年から25年にかけてこの講座に参加の受講者が、技法に工夫を凝らして制作した作品による作品展を併せて開催した。

<展示構成>

【あきたの染めと織り】

- 1 鹿角紫根染・茜染 ～華やかな色彩と優雅な意匠～
- 2 亀田ぜんまい・白鳥織 ～素材を生かした機能的な織り～
- 3 秋田八丈 ～趣ある色合いと繊細な意匠～
- 4 横手木綿 ～豊かな色調と多様な意匠～

展示資料：着物類、反物類、小物類、道具類、見本帳等 約100点

【博物館教室「楽しいしぼり染め」作品展】

- 1 秋田の絞り染め

- 2 教室の概要と活動風景の紹介
- 3 各種絞り製作技術の紹介と製作工程見本の展示
- 4 作品紹介

展示資料：絞り作業工程見本、浴衣類作品、
反物類作品 約120点

<付帯事業>

- 1 藍の種プレゼント（4月26日、27日）
- 2 ハンカチの藍染め体験（5月17日、18日）
- 3 「楽しいしぼり染め」受講者による絞り作業の実演
（会期中の毎週日祝日）

担当：藤原 尚彦(工芸部門)



◇企画展「レピドプテラ～チョウとガの自然史～」平成26年7月5日（土）～平成26年8月24日（日）

<展示概要>

チョウとガはポピュラーな存在ではあるが、生態や分類などについて、十分に理解されていない面もある。この展示では、「チョウとガの違い」を手がかりに、できるだけ多くの分類群の実物標本を展示することで、分類の考え方や、鱗翅目全体の多様性について、新しいイメージを持っていただくことをねらいとした。また、秋田県内のチョウやガが直面している状況や、調査方法を具体的に提示し、地元のチョウやガの調査への取り組みを促す部分を設けた。

<展示構成と主な展示資料>

1 分類と系統

「チョウとガの違いとは何か」を手がかりに、鱗翅目の分類を紹介。

88科約1,200種（うち約330種は外国産、約780種が秋田県産）のチョウ・ガ標本を展示。日本産の全上科を網羅。シャクガモドキ科など、日本に産しない科も紹介。

2 はねと鱗粉

鱗粉が作り出す模様とその機能を紹介。見る角度で色が変わる構造色を持つ種や、有毒種に似せた模様を持つ擬態種などの標本を展示。

モルフォチョウ類、ブルキシタアゲハ、メダマヤママユ類、コノハチョウ、マネシアゲハ類、スカシバガ類、他

3 秋田のチョウとガに何が起きているか

地元のチョウとガにまつわる最新の話題を提供。絶滅危惧種や温暖化で北上する種などを展示。

オオウラギンヒョウモン、チャマダラセセリ、ギフチョウ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、他

4 チョウとガを調べる

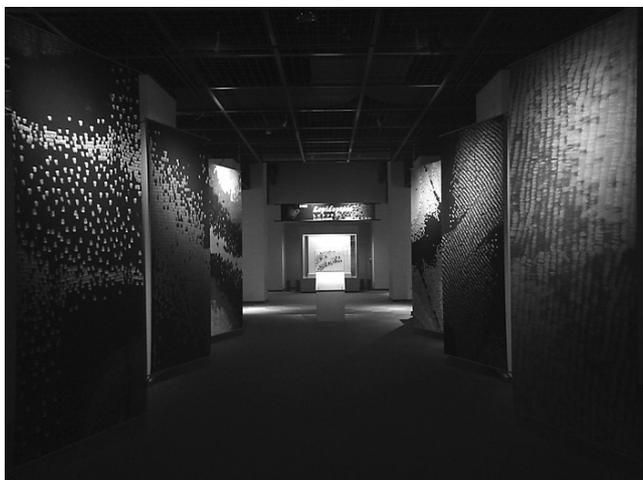
採集や標本作製の方法及び地元の自然史関係の情報源を紹介し、自発的な自然史的調査への取り組みへのガイドとする。

灯火採集用具一式、展翅板など標本作製用具、図鑑、同好会誌、学会誌、他

<付帯事業>

- 1 レピドプテラの話題を紹介（7月26日、8月23日）
- 2 展示解説（7月5日、7月19日、8月16日）
- 3 夜の観察会（7月26日）

担当：梅津 一史(生物部門)



◇特別展「菅江真澄、旅のまなざし」 平成26年9月20日（土）～平成26年11月9日（日）

< 展示概要 >

秋田県内各市町村を会場にして開催された第29回国民文化祭を記念し、菅江真澄の特別展を開催した。

秋田の文化や歴史を語るとき、200年前の真澄の記録が話題にされるほど、真澄と秋田には深いつながりがある。真澄がモノをどんな視点から見つめて記録したのかを大きなテーマとしながら、真澄の中心資料である重要文化財「菅江真澄遊覧記」全89冊を中心に、真澄の記録に関わりのある資料を6章に分けて展示紹介した。

< 展示構成と内容 >

1 菅江真澄の旅と著作

真澄の生涯を知る手がかりになるのは、重要文化財と県指定文化財「菅江真澄著作」という二つの大きな資料群である。これらを中心に、真澄の著作を分類し概観しながら、47年にも数えられる旅を見ていくことにした。

2 真澄の肖像～うた人・くすし・旅人

真澄には、歌を介して人々と交流した「うた人」の側面、診察や施薬という「くすし」としての側面、旅の生活が次の旅の糧ともなった「旅人」としての側面がある。それらに通じる特徴的な記述や資料を紹介した。

3 いにしえ憧憬～遺物と歴史の記録

真澄の記録が「擬古文」で書かれること自体が、真澄のモノの見方を示している。真澄の関心は、旅をする土地の遺物や歴史にも向けられた。真澄の視点を、考古や歴史の記録、社寺の縁起に関する遺墨資料などから紹介した。

4 祈りの風景～仏と神と

真澄の時代は神仏混淆の中にあり、仏も神も一緒に敬うべき対象であった。真澄は旅の中で、人々の生活の中にある神仏への祈りのかたちをさまざまに記録した。

5 暮らしのかたち～北国をつむぐ

真澄の記録に庶民の生活の営みが映し出されていることは、民俗学の柳田国男が高く評価した点である。真澄の記録を横断的に見ると、モノの違いや変化が浮き彫りになってくる。生業の各面から真澄の記録を紹介した。

6 あきた遺産として

真澄の記録が、特に秋田で長く関心が持たれて読み続けられてきたのは、何よりも真澄の記録が持つ文化遺産としての魅力からである。現代の私たちが学び続けて、「あきた遺産」としての価値を増し、また、次世代に語り継ぐことが必要であろう。今回の試みとして、真澄が記録した五つの伝説伝承を紙芝居とした。

< 資料展示数 > 220点余り

< 付帯事業 >

- 1 写真展「真澄のいる風景」（応募総数31点）
- 2 講演会 9月27日、10月11日、11月1日
- 3 特別講演会「五郎が語る 真澄！」 10月18日
- 4 上映会「語りつなぐ真澄」
紙芝居、ナマハゲ再現、猿倉人形芝居 10月25日
- 5 展示解説会 9月20日、10月4日、11月2日
- 6 連携展示「菅江真澄の旅パネル展」 3施設で実施

担当：松山 修（菅江真澄資料センター）

丸谷 仁美（民俗部門）

吉川耕太郎（考古部門）



◇企画展「地域展 男鹿・南秋の自然と文化」 平成26年11月29日(土)～平成27年4月5日(日)

<展示概要>

当館では開館以来、「郷土の自然と文化に関する認識を深める」という秋田県立博物館条例の趣旨に基づき、「伝説のさとー鹿角」、「鳥海山麓展ー山と人ー」、「平鹿ー水とくらしー」、「能代山本ー川と山のくらしー」、「湯沢雄勝の文物展」など、地域調査に基づく地域展を企画・開催してきた。

今回の展示は、男鹿・潟上・南秋地域について平成24年度から3年間実施した調査研究をもとに構成したものである。展示では、自然・人文諸部門を備えた総合博物館として、さまざまな切り口で地域の魅力を発信するとともに、地域の特徴的な資料を活用して、ふるさと学習の一助となるような展示をめざした。

<展示構成>

- ◎男鹿・南秋の大地のおいたち〔地質〕
- ◎男鹿・南秋のいきもの〔生物〕
- ◎資源開発の幕開け～旧石器・縄文人を魅了した黒曜石・珪質頁岩～〔考古〕
- ◎霊場としての男鹿〔歴史〕
- ◎男鹿・南秋のワラ細工技術～履物類～〔工芸〕
- ◎潟のめぐみ～八郎潟の漁業～〔民俗〕
- ◎菅江真澄と男鹿・南秋の板碑
〔菅江真澄資料センター〕
- ◎男鹿半島の先覚者～中川重春、古仲鳳洲、天野芳太郎を中心として～〔秋田の先覚記念室〕
- ◎男鹿・南秋のくすり〔民俗〕
- ◎男鹿の港 今昔〔歴史〕
- ◎高度経済成長期の記憶と未来への展望〔歴史〕

また、各部門ごとのテーマ以外に、地域で重要な資料の解説や複数部門に関わる内容を、トピック展示として配置した。

- ・対馬海流が運んだ軽石
- ・豊川タールピットと天然アスファルト
- ・縄文人の海洋資源開発
- ・江戸時代に発見された奇妙な土器
- ・あわれな「人魚」
- ・明智光秀の書状
- ・翻弄される瀧の頭
- ・対馬暖流と温暖化

<付帯事業>

1 オープニング特別企画

「男鹿しょつつる焼きそば出店」 11月29日、30日

2 展示解説

展示期間中の土日及び祝日には、毎回2つのコーナーのリレー解説を実施した。

担当：渡部 均(展示・資料班)



◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔第64回企画コーナー展〕真澄、学びの技法

平成26年6月28日(土)～8月17日(日)

菅江真澄は、旅を通じた人々との交流の中で、学習を積み重ねてきた。その結果が、二百冊にも数えられる著作であり、数多くの遺墨資料である。学習の機会が多い現代とは異なり、真澄の時代は、自らが意識しなければ物事を学ぶ機会は多くはなかったであろう。真澄の学びの方法を、写して学ぶ、メモる、見出しで活用、日記を見せる・読む、書物の入手、硯へのこだわりの6点から紹介した。展示資料15点のうち、真澄自筆の大館市立中央図書館蔵本5点のほか、真澄がその素材を描いた「木の葉硯」の実物などを紹介した。

〔第65回企画コーナー展〕真澄、書に託した思い

平成26年10月18日(土)～12月7日(日)

菅江真澄には、一般に遺墨資料と呼ばれるたくさんの書(しょ)があり、短冊・色紙・掛軸・書簡などの形態で残されている。交流した人々の求めに応じて書かれたものも多く、そこからは、真澄の願いや気持ちを読み取ることができる。真澄の遺墨資料を、望郷(父母や友を想う)、まじない(言葉への信頼)、敬神(神々を敬う)、言祝ぎ(繁栄や長寿を祈る)、手紙(想いを伝える)の5点から紹介した。展示資料12点のうち、短冊1点、軸装7点、書簡卷子1点、棟札1点(複製1点を並べて裏面も紹介)、冊子1点であった。

〔第66回企画コーナー展〕 真澄、津軽の旅

平成27年3月21日（土）～5月10日（日）

菅江真澄は、天明5年(1785)と天明8年、蝦夷地に向かうためにそれぞれ津軽（現在の青森県西半部）を通ったほか、寛政7年(1795)～享和元年(1801)には長く津軽に滞在した。その間、いくつかの日記を残している。中でも、真澄の日記や、弘前藩の「御国日記」に散見される採葉のことは、真澄の津軽での生活を特徴付けている。また、現在の三内丸山遺跡・亀ヶ岡遺跡の縄文土器を記録するなど、図絵を伴った記録によって、当時の津軽の景色と人々の暮らしを、生き生きと私たちに語りかけてくれる。展示では、真澄による津軽の旅を年代順に紹介した後、トピック的に、採葉係御用手伝い、遺物の記録、

津軽の遺墨資料を紹介した。さらに、図絵や記録からクイズを出題し、真澄の記録への興味を喚起するようにした。

担当：松山 修（菅江真澄資料センター）



「真澄、学びの技法」展示風景

◇秋田の先覚記念室 企画コーナー展

「ゲシェーになった男・多田等観

～日本人が見たチベット～

平成26年9月27日（土）～11月30日（日）

＜展示概要＞

秋田市土崎に生まれた多田等観（明治23年～昭和42年）は、チベット仏教圏外の出身者として初めてゲシェー（仏教哲学博士）の学位を授与された人物である。大正2年、苦難の末に入蔵を果たすと、10年にわたってダライラマ13世の下で修行した。数々の貴重な資料を携えて帰国した後は、東北帝国大学や東京帝国大学に勤務の傍ら、西藏大蔵経をはじめとする請来資料の整理・研究にあたった。その起伏に富んだ生涯を遺品やチベット請来資料を交えて紹介した。

展示では、命の危険さえあった入蔵を果たすまでの苦難の旅路、現地での寺院で修行し、チベット仏教を血肉とした研究者としての業績、行く先々で誰からも愛されたという魅力的な人柄、の3点を紹介する構成とした。また、目玉の一つとして、昭和38年に秋田市で行われた講演のCDを再生することにより、多田の肉声を展示室で聴けるようにした。

＜展示構成＞

- 1 生い立ち
- 2 秘密国チベット
- 3 ラサをめぐって
- 4 ゲシェーとなる
- 5 帰国後の足跡

＜付帯事業＞

- 1 講演会
日時：10月12日（日）午後2時～3時30分
講師：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
共同研究員 高本康子氏
演題：「多田等観が見た『喇嘛(ラマ)教』
—近代日本の異文化体験—」
場所：講堂
- 2 展示解説
9月27日、28日、10月4日、5日、25日、26日、
11月8日、9日、22日、23日

担当：今川 拡（秋田の先覚記念室）



◇他施設との連携展示（主なもの）

「春の小さな鉄道展」（秋田県立図書館）

平成26年3月8日（土）～6月22日（日）

博物館・図書館・公文書館の3館連携による展示。実物資料、写真、模型を展示し、雪国という過酷な環境の中で、安心・安全運行を完遂してきた過去と新たな取り組みを紹介。鉄道の魅力を観覧者に伝えた。

会期日数：98日 観覧者数：14,986人

「わくわくサイエンスパーク」（能代エナジウムパーク）

平成26年4月26日（土）～5月6日（火）

平成25年度の企画展「わくわく科学展」で展示した実験道具類約20点を能代エナジウムパークの展示室で展示した。展示準備の後、エナジウムパークのスタッフに詳しく展示解説をおこなった。

会期日数：11日 観覧者数：3,926人

「菅江真澄の旅パネル展」

特別展のPRを兼ねて、3館の協力を得て開催した。

・みたね鯉川地区交流センター

（三種町、平成26年6月4日～16日の水・土・日）

・美郷町学友館・ロビー（平成26年7月15日～24日）

・旧金子家住宅・内蔵

（秋田市、平成26年8月2日～24日）

それぞれの会場に合わせて、パネルの構成を変えただけでなく、適宜、実資料を置いた。

「大地と人のモノガタリーおれとカメラとラジカセとー」（男鹿市ジオパーク学習センター）

平成26年10月1日（水）～11月3日（月）

第29回国民文化祭・あきた2014に伴い、男鹿市教育委員会がジオパーク関連企画展を開催。本館に家電製品の展示を依頼してきた。「人のモノガタリ」が、人々の生活の中でいかに手軽に記録できるようになったのかを示すべく、カメラとラジカセを展示した。

会期日数：30日 観覧者数：626人

県博コレクション展「矢石館遺跡の縄文文化」

（大館市郷土館）

平成26年10月4日（土）～11月30日（日）

国民文化祭の開催にあわせて、当館所蔵の大館市矢石館遺跡出土品を中心に、考古部門の調査研究成果や大館市郷土博物館収蔵品を紹介する出張展示を開催した。また、期間中、11月3日（月）文化の日には午後1時30分～午後3時まで同会場で出前講座と展示解説を行った。

会期日数：51日 観覧者数：772人

「国民文化祭あきた2014文化庁メディア芸術祭秋田展協力展示」（アトリオン）

平成26年10月25日（土）～11月3日（月）

第29回国民文化祭・あきた2014の一環としてメディア芸術祭秋田展が千秋美術館で行われた。この催しに「秋田県立博物館デジタル収蔵庫（略称：秋田県博HD）」や特別展「菅江真澄、旅のまなざし」を紹介した。

会期日数：10日 観覧者数：2,060人

◇可変展示

人文展示室 展示替えコーナー

・「秋田で新発見！縄文人の愛した黒曜石」

平成26年1月21日（火）～平成26年5月11日（日）

平成25年度の成果である田沢湖産黒曜石の調査と蛍光X線分析・年代測定分析の成果についての速報展示。

・「縄文人のアニマルアート～自然と対話する一つの方法～」

平成26年5月13日（火）～12月14日（日）

縄文人が製作した秋田県内の動物形土製品等を展示。動物形土製品の分布が県内陸部に偏ることや縄文人の自然認識についての現在の考え方などを紹介。

・「秋田初の新聞 遐邇（かじ）新聞」

平成26年5月13日（火）～平成27年1月12日（月）

現在の秋田さきがけ新報の前身である明治初期の遐邇新聞を展示し、当時の世相や現在の新聞と異なる特徴について紹介した。

・「日本初の発見 珪質頁岩の採掘遺跡～三種町上岩川遺跡群～」

平成26年12月16日（火）～平成27年3月31日（火）

日本で初めての発掘調査事例である珪質頁岩採掘遺跡の上岩川遺跡群に関する最新の調査研究成果を展示。本県が珪質頁岩や黒曜石、アスファルトなど石器石材・地下資源の宝庫であることも合わせて紹介。

・「郷愁昭和史 十番勝負」

平成27年1月14日（水）～5月17日（日）

昭和30年～40年代の生活用品・娯楽用品を展示するこ

とで、高度経済成長期の現代史を体験の中から振り返る展示。

1月14日（水）～3月15日（日）の前期展示は「それぞれの少年期」と題し、レコード、ボードゲーム、プラモデル、男性用整髪料を展示した。

3月17日（火）～5月17日（日）の後期展示は、台所用品、食器、駄菓子屋什器、人形等を展示した。

自然展示室 展示替えコーナー

- ・「秋田の釣魚大全3－イカー」

平成26年4月1日（火）～9月30日（火）

秋田に生息するイカ類の亚克力封入標本及びそれぞれの釣り方、道具、イカの分類学的特徴、生態などについて展示した。

- ・「秋田の赤トンボ」

平成26年10月1日（水）～平成27年3月31日（火）

秋田県に定着しているアカネ属全種の標本を展示し、近似種の見分け方や、アキアカネの生活史などを図解で紹介した。あわせて、県内のトンボ全般について、代表的な種の標本を展示した。

自然展示室 速報展示

- ・「男鹿市で発見されたヒラスズキ」

平成26年4月1日（火）～5月6日（火）

- ・「北極圏からの使者 シロフクロウ」

平成26年7月26日（土）～8月24日（日）

ふるさとまつり広場

- ・「鹿島流し」 4月8日（火）～6月29日（日）
- ・「七夕絵どうろう」 7月1日（火）～8月31日（日）
- ・「写真展 真澄の見た風景」
9月20日（土）～11月9日（日）
- ・「秋田の凧」 11月11日（火）～2月1日（日）
- ・「ひな人形・押し絵」 2月3日（火）～4月5日（日）

展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。また常設展示の清掃を定期的実施した。常設展示のDVD等が長年の使用により不具合が生じており、一部の機器はオーバーホールを行った。

解説案内サービス業務

来館者の方々に、親しみある解説活動を実施するために、次の4点の重点項目を設定して解説業務を行った。

- 1 来館者に応じたわかりやすい解説の創意工夫
- 2 展示内容の正確な理解と的確な解説・その他情報提供の実施
- 3 誠意ある応対の実施
- 4 職員内情報を共有し来館者対応に活かす

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Q&Aを分担した。平成26年度は特に冬期間にQ&A作成に重点的に取り組んだ。また、県内類似施設への研修も行い、解説業務の研鑽を積んだ。

デジタルアーカイブ資料

平成24年度の「デジタルアーカイブ&アプリケーション開発事業」により、デジタル画像化した館蔵資料をスマートフォンとタブレット端末専用アプリケーション（秋田県立博物館デジタル収蔵庫＝秋田県博HD）で閲覧できるようにしている。

24年度に撮影した434点の資料のうち、26年度追加分の110点を合わせて268点について現在公開している。アプリには日本語による解説文等のほか、国際課の協力のもと英訳文についても併せて掲載している。今後も段階的に増やし、28年度を目標に撮影した全資料を公開する予定としている。

分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成26年4月1日から平成27年3月31日（火）まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。附属屋については内部公開の希望に応えるために、平成26年5月3日（土）と8月30日（土）に公開し、担当学芸職員が解説を行った。なお、8月30日は秋田市金足黒川にある三浦館（重要文化財）の見学もあわせて行った。

4 教育普及活動

博物館教室は23教室を開講し、参加者は1,575人であった。名誉館長館話は前期6回、後期6回の計12回実施し、参加者は320人であった。新しい趣向の教室や複数回開催の教室を開講したこともあり、多くの参加者を得ることができた。

イベントとして、8月に重要無形民俗文化財の西馬音内盆踊りの実演、3月に進駐軍のピアノを使ったミュージアムコンサートを開催し、それぞれ140人ほどの来館者が参加した。

ミュージアムトークは、学校の夏休み期間中に常設展時について23回行い、197名が参加した。

企画展・特別展の付帯事業の一つとして、展示解説を

行った。展示資料にまつわる話題をわかりやすく解説し、観覧者に好評だった。

喫茶室を会場に考古部門の学芸職員が考古学に関する特別講義を行い、20名ほどが参加した。

県内博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館に対してのくん蒸サービスや秋田市文化施設連絡会議(みるかネット)の事業であるギャラリートークセッション等へ参加した。

教職10年経験者研修、博物館実務実習、企業行政研修に対応するとともに、出前授業、県立大学や総合教育センターでの講義等の講師を務めた。

普及行事

◇博物館教室

平成26年度は23の博物館教室が計画されたが、悪天候と応募者なしのために中止となった2教室を除く、21の教室が予定通り実施された。のべの参加人数は1575人で、昨年度に比べると315人の増加であった。平成26年度の傾向として、シリーズ物での開催が顕著になったことが挙げられる。また、子どもを対象とした教室、ボランティア育成のための教室など、幅広い年齢層のニーズに応えるような教室がおこなわれた。他の施設や団体との共催による教室も開かれて、集客力につながった。

◇名誉館長館話

前期6回を「歴史と文化を語る」、後期6回を「先覚・真澄」と銘打った内容にして、今年度が4年目となった。合計で320人の参加であった。前期は、長年の研究生活からの豊富な話題、それに時季の良さもあって多人数の参加を得たが、後期は内容が絞られたためか参加者数が伸びなかった。

◇その他の行事

- ・ゴールデントークウィーク 全4回 32名
- ・ミュージアムトーク 全23回 197名
- ・西馬音内盆踊り 8月9日(土) 138名
- ・早川泰子のほっとJAZZたいむvol.4 3月22日(日) 134名

	教室名	参加人数
1	「真澄に学ぶ教室」講読会(前期)	100
2	旧奈良家住宅見学会	19
3	化石と地層の観察会	18
4	古文書大講堂	62
5	はじめての考古学	95
6	楽しいしぼり染め -研究コース-	209
7	楽しいしぼり染め -中級コース-	246
8	昆虫教室	32
9	初めての古文書解説	96
10	竹細工製作教室	24
11	子供の土器づくり体験	32
12	子供と大人の石器づくり体験	14
13	アイの生葉で染める	27
14	三浦館・旧奈良家住宅合同見学会	30
15	払田柵跡とは何か (共催：払田柵跡調査事務所)	96
16	「真澄に学ぶ教室」講演会Ⅰ	66
17	「真澄に学ぶ教室」講演会Ⅱ	100
18	「真澄に学ぶ教室」講演会Ⅲ	68
19	秋田の先覚記念室講演会	56
20	「真澄に学ぶ教室」講読会(後期)	118
21	ゼロからはじめるワラ仕事	67
	合計	1,575

	参加人数
名誉館長館話 -歴史と文化を語る-	209
名誉館長館話 -先覚・真澄-	111
合計	320

▶ 博物館における研修・実習

◇博物館実務実習

平成26年度の博物館実習は、8月11日から16日までの6日間（一部の学生は10日間）で行い、茨城大3名、新潟大、筑波大、札幌学院大、東北芸術工科大、宮城学院女子大、帝京大各1名の計9名の実習生を対象にして実施した。

実習は、博物館に関する事を講義形式で学ぶものと、実際に資料を取り扱ったり、博物館の事業や業務を体験する体験実習形式の二つに分かれて行った。

◇企業・行政研修

秋田大学からの依頼で3名の学生を対象に、8月21日から24日までの4日間の研修を行った。

この研修は、実務を経験させ、将来の職業選択に向けて、様々な食料についての理解を深めさせることを目的としている。そのため、博物館の機能についての講義を行い、それに伴う実習として、博物館資料の整理補助・来館者調査を行ってもらった。

◇教職10年経験者研修

県立盲学校および県立秋田南高等学校からの教員計2名を対象に研修を行った。内容は、考古部門の専門業務と普及業務、わくわくたんけん室での業務を中心に研修してもらった。本研修を通して博物館の業務内容の理解を促進するとともに、博物館と学校とのより良い関係を

▶ 他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会（略称：秋博協）

- ・役員会、総会、研修会 6月5日（木）
会場：小坂町交流センター・セパーム 総会は24館32名参加

研修会1：講演「明治の近代化産業遺産の活用」
講師：高橋竹見氏
（小坂まちづくり株式会社社長）

研修会2：小坂鉄道レールパーク見学

- ・実務担当者研修会 2月26日（木）
会場：秋田県立博物館学習室 15加盟館19名参加
講演：アジア歴史資料センターの取り組みと今後の展開
講師：濱田幸夫氏

（国立公文書館アジア歴史資料センター）

話題提供：秋田県立博物館でのデジタルデータ公開の実情

秋田県立博物館 梅津一史

- ・燻蒸サービス
9月1日（月）～9月8日（月）
7施設が利用

- ・秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」
加盟各施設が掲載内容を随時更新した。
- ・会報の発行『秋博協だより』第49号
- ・リーフレット「秋田の博物館」の刊行
A3判2×3ッ折 両面4色刷
加盟施設及び観光施設等に配布

◇ボランティア活動

博物館ボランティア「アイリスの会」は、活動内容によってA・B・C・笑の4つのチームに分かれている。

Aチームは、来館者のサポートを中心とした活動を行っており、おはなし会の実施、講演会や博物館教室の受付等の博物館事業へのサポート活動を行っている。加えて、特別展「菅江真澄 旅のまなざし」に合わせて真澄の著作を下にした紙芝居を作製し、おはなし会で披露した。

Bチームは、わくわくたんけん室での補助的業務を中心に活動するチームだが、現在所属員が1名であり、夏休みなど全会員でローテーションによる来館者への補助的業務を行った。

Cチームは、図書資料の整理（考古部門も含む）活動、ボランティア広報誌の作成・掲示、博物館事業の広報活動、研修の企画・運営を行っている。

笑チームは、定期的な学習会を実施してわら細工技術の習得につとめ、しめ縄作り教室を年末に開催している。

その他には、山吹の生花での分館「旧奈良家」の飾り付けを行い「軒の山吹」の風景を再現した。

◇博物館友の会

- ・役員会 4月12日（土） 10:30～
- ・総会 4月12日（土） 13:30～
- ・研修行事

1) 「秋田学」を深める研修

- ①秋田の文化と自然を学ぶⅠ 5月16日（金）
能代市の自然と歴史を学ぶ 14名参加
- ②秋田の文化と自然を学ぶⅡ 8月2日（土）

横手市の文化と歴史を学ぶ 17名参加

③秋田の文化と自然を学ぶⅢ 9月24日(水)

駒ヶ岳の自然観察 9名参加

2) 県外博物館の研修

新潟市・佐渡市の博物館・資料館を巡る

6月20日(金)～22日(日) 15名参加

・植物標本ボランティア 毎週火曜日活動

・今年度より考古学ボランティア、古文書整理ボランティアの活動を開始

1) 考古学ボランティアの活動

活動メンバー 11人

活動日 適宜

活動内容①収蔵資料の整理・クリーニング

②博物館教室等のイベントの準備、サポート

③館内外での研修

2) 古文書整理ボランティアの活動

活動メンバー 8人

活動日 毎月2回水曜日

活動内容①本館収蔵の守屋家資料(未整理分)の整理・目録化作業

②守屋家資料の翻刻

『秋田県立博物館研究報告』第40号に掲載

・友の会だより 第40号・第41号の発行

◇その他団体(みるかネット等)

秋田市内文化施設連絡会議は平成23年度から活動し、市内文化施設相互の連携を図りながら展示等の活動を充実させてきているものである。平成26年度は、5月18日の国際博物館の日にあわせて、ギャラリートークリレー「みんなで行こう、みゅーじあむ!」で、企画展「あきたの染めと織り」の展示解説を行った。3月14日には、みるかネット連携講座で、「秋田を描く～描かれた秋田～」を開催した。また、同会議が発行しているイベント通信13、14号に対して企画展等の情報を提供した。

男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会が企画した「男鹿半島・大潟ジオパークでカードラリー～カードを集めて君もGPマスター～」に10月1日から11月3日にわたって参加し、男鹿半島・大潟ジオパークに対しての啓発活動に協力した。

博物館活動の記録・整理

◇新聞等掲載記録

博物館活動については、新聞、雑誌等により、120件を超える記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。掲載記事等については館職員に掲示等により紹介するとともに、記録集を作成した。記事等の掲載については、館をあげての広報活動の成果が表れたものと考えている。

◇新聞記事連載

平成26年1月11日から12月27日まで、読売新聞秋田版「秋田のタカラ」において、県内の貴重な文化財、資料、

生物等について、リレー形式で掲載した。執筆は、県内の博物館等職員、文化財担当職員が行った。当館からは、歴史、考古、民俗、工芸、先覚、生物の6部門の担当職員が延べ17回にわたって執筆し、県内の貴重な遺物・珍品等についてエピソード等も交えて紹介した。

◇レファレンス

平成26年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次のとおりである

考古21件 歴史10件 民俗17件 工芸9件 地質12件 生物19件 先覚18件 真澄14件 普及関連2件

5 広報出版活動

展示やイベントに関するポスターやチラシについては、内容に合わせて配布計画を検討し、関連団体や学校等に重点的に配布した。秋田市内のコンビニエンスストアに対しては、県の計画に沿って配布した。

マスコミ・地元情報誌等に関するプレスリリースや情報提供は、展示・イベントにあわせて時機を逸することなく、積極的に行った。企画展および特別展については、従来の広報活動に加えて、館をあげてのマスコミ等への

訪問活動を通して情報を発信した。

ホームページは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて掲載情報を更新した。フェイスブックによって展示やイベント等、種々の博物館活動を紹介した。なお、ホームページのアドレスは平成27年1月から変更し、運用している。今後も、利用者目線に立った体裁とするなど、工夫と改善を継続して行っていく。

印刷出版

◇展示ポスター

特別展「菅江真澄、旅のまなざし」	B 2判 1,500部
企画展「魅了する色と意匠 -あきたの染めと織り」	B 2判 1,200部
企画展「レピドプテラ ~チョウとガの自然史~」	B 2判 1,300部
企画展「男鹿・南秋の自然と文化」	B 2判 1,200部

◇展示広報チラシ

特別展「菅江真澄、旅のまなざし」	A 4判 43,000部
企画展「魅了する色と意匠 -あきたの染めと織り」	A 4判 13,000部
企画展「レピドプテラ ~チョウとガの自然史~」	A 4判 35,000部
企画展「男鹿・南秋の自然と文化」	A 4判 20,000部

◇展示解説資料

特別展「菅江真澄、旅のまなざし」	A 4判144頁 600部
企画展「魅了する色と意匠 -あきたの染めと織り」	A 4判12頁 2,000部
秋田の先覚記念室企画コーナー展 「ゲシェーになった男・多田等観 ~日本人が見たチベット~」	A 4判 8頁 1,000部

◇広報誌

博物館ニュース No.159・160	A 4判 8頁 2,300部
広報紙「真澄」 No.32	A 4判 8頁 1,500部

◇報告書等

年報 平成26年度	A 4判 44頁 800部
秋田県立博物館研究報告 第40号	A 4判132頁 600部
真澄研究 19号	A 5判 84頁 500部

広報活動

特別展、企画展の広報は、通常発送先の他に内容に合わせた特定対象に厚くチラシを配布した。特別展「菅江真澄、旅のまなざし」では、秋田市、男鹿・南秋地区の中学校の生徒全員、および文化財保護協会の県内各支部に会員人数分を配布した。同様に、企画展「魅了する色と意匠」では県内和装関係団体へ、企画展「レピドプテラ」では秋田市、男鹿・南秋地区の全小学校に児童数分を、地域展「男鹿・南秋の自然と文化」では男鹿・南秋地区の小中学校の全児童生徒及び教職員人数分を配布した。

プレスリリースは企画展・特別展や企画コーナー展以外にも、可変コーナー、ふるさとまつり広場の展示替え

の都度、またイベント開催の都度実施し、館長や総務班長からの報道各社への直接の売り込みも行った。この結果、報道各社からの問い合わせ・取材は年間を通じて活発で、平成25年度以上に回数が増加した。

地元情報誌等からの取材に対しては、適宜情報を提供し企画展等に関する情報を掲載していただいた。

ホームページやフェイスブックによる告知も、昨年同様行った。またホームページ上では、展示に合わせて、「レピドプテラ」ではチョウ・ガ類の解説記事を、「菅江真澄、旅のまなざし」では真澄に関するクイズを、連載の形で順次追加していくという試みも行った。

インターネット利用

ホームページを設置しているサーバーが容量不足になってきたため、新規のサーバーを契約し引っ越すとともに、ドメインも取得して新たなアドレスで運営することとした。容量に余裕が出たため、これまで最新号しか掲載していなかった研究報告などの印刷物も、過去のデータを追加する予定である。今後も定期的にコンテンツを

追加していく予定で、その準備作業を進めている。

電子メールについては、様々な問い合わせや教室などへの申し込みなどに使用されており、担当者が定期的にチェックして対応している。また昨年からフェイスブックでの情報発信も行っており、一定の効果が見られるため、今後も引き続き情報提供を行う予定である。

6 学習振興活動

学習振興班では、体験展示室「わくわくたんけん室」の運営と教育普及の一部であるセカンドスクールの利用の対応にくわえ、平成25年度から教員長期社会体験研修も行っている。

わくわくたんけん室は、博物館の展示と連動して郷土の歴史や取り巻く自然、培われてきた文化などをアイテム化し、多くは壁面の棚の「宝箱」とよんでいる箱に入れてある。中に入れてあるマニュアルに従い、楽しく自主活動をしてもらうことを目指している。平成26年度は、学芸全員当番制の4年目となり、スムーズに運営するこ

とができた。季節アイテムの開始や終了については、来館者数や材料数を考慮し臨機応変に対応した。

セカンドスクールの利用は、学校以外の教育施設において教師が当該施設や人材などを活用し、授業時数にカウントするものである。平成26年度は、学芸職員が学校に出向いての出前授業にも力を入れて前年度より利用校数、利用人数ともに増加した。また、利用促進目的で「教師のための博物館の日」を学校が夏季休業中の8月に開催した。

わくわくたんけん室の運営

平日の学校団体利用に大きな変化はなかったが、土日や学校長期休業中の一般利用は天候に左右されたためか微減となっている。

毎年好評の季節イベント、「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ」は平成26年度も春秋の2回実施した。今年度特徴的な点は①秋に「あまあま」「ちょいむず」と難易度別に2つのコースを設けた、②マル秘情報カードをお宝に加えた、③例年の広報先に幼稚園も加えた、以上の3点である。

秋に新規導入した「あまあま」「ちょいむず」の問題は、特に親子連れに大変好評であった。これにより昨年

を大きく上回る人に挑戦してもらうことができた。参加者の傾向として小学校低学年、またファミリーの参加が多く、また新規の参加者も多かった。今後も広報の仕方を工夫することにより更なる利用者増を目指す。学校の夏期休業期間には、「貝の標本作り」や「貝のマグネット飾り作り」を行った。

12月の毎土日はとても天候が悪く、平成25年度に比べ一般来館者が大幅に減ったことから、ミニ門松・ミニしめ縄の製作は予想数を下回ったものの、それでも「ミニ門松が作りたくて来館した」という声を多数いただいた。

学校の博物館利用の援助

学校団体の利用状況を平成25年度と比較すると、中学校の利用増の影響により、全体として校数、人数とも増加した。小学校は校数の増にもかかわらず、人数は微減であった。

幼稚園・保育所は遠足等での雨天時のみの利用が多いため、利用数が天候により大きく左右される。48校の申し込みに対して25校が晴天のためのキャンセルである。晴雨にかかわらず利用していただけるよう、新たに幼稚園・保育所の先生向けのパンフレットを作製した。小学校の利用内容は、分館見学を含む3年生の「古い道具と昔の暮らし」、6年生の人文展示室を利用した「日本の歴史」や自然展示室を利用した「大地のつくりと変化」などの学習が多く、出前授業も実施した。中学校は総合学習での利用が8割弱を占め、宿泊体験学習のコースとして当館の利用を取り入れている学校が見られる。また、県外小・中学校が修学旅行の一環で立ち寄るケースが北海道・岩手から各1件あった。高等学校による利用のお

よそ半分はインターンシップが占め、他にオーストラリア人留学生の来館が見られた。特別支援学校の利用では、個々の生徒に応じた対応ができた。

利用の受け入れにあたっては、目的や人数などを確認の上、必要に応じてこちらから日程や見学内容を提案し、より有意義なものとなるよう心がけた。利用増には教員の認知度向上が不可欠であることから、博物館のセカンドスクールの利用についてのパンフレットを作製し各校に学年数分を送付した。

	学校数	利用人数	授業カウント内訳				
			教科	道徳	総合的な学習	特別活動	その他
幼稚園・保育所	23	1,328	0	0	0	0	23
小学校	93	4,406	90	1	21	7	0
中学校	33	1,075	3	0	26	4	0
高等学校	14	542	5	0	1	8	0
特別支援学校	4	29	2	0	1	1	0
その他	1	16	0	0	0	1	0
合計	168	7,396	100	1	49	21	23

博物館における研修・実習

<インターンシップ>

能代高等学校（2名） 7月23日（水）～25日（金）
 和洋女子高等学校（4名） 7月29日（火）～31日（木）
 金足農業高等学校（2名） 8月6日（水）～8日（金）
 男鹿海洋高等学校（6名） 9月9日（火）～11日（木）
 男鹿工業高等学校（2名） 9月30日（火）～10月2日（木）
 秋田商業高等学校（4名） 11月5日（水）～7日（金）

<職場体験>

男鹿南中学校（1名） 7月2日（水）～3日（木）
 秋田北中学校（1名） 9月24日（水）～25日（木）
 羽城中学校（2名） 10月15日（水）～17日（金）
 泉中学校（4名） 10月16日（木）～17日（金）
 天王中学校（2名） 10月21日（火）～24日（金）
 天王南中学校（2名） 10月21日（火）～24日（金）

◇高校生ボランティア

秋田西高等学校の35名がわくわくたんけん室業務の補助ボランティアを行った。

7月19日（土）～8月17日（日）

◇教員長期社会体験研修

教育機関との連携活動の一環として、教員長期社会体験研修を1名（小学校教諭）受け入れた。当館における教員長期社会体験研修の目的は、博物館での様々な業務を体験することで、豊かな人間性と広い視野に立った教育力や実践指導力の育成を図ることにある。

26年度は、下記の研究に加え、わくわくたんけん室での日常業務を行った。また、研究成果を第29回秋田県教育研究発表会（総合教育センター主催）で発表した。発表までに2回の中間発表を行い、学芸職員の意見等を参考にしながら、研究を進めた。

○加藤 明（潟上市立東湖小学校教諭）

研究テーマ：「博物館民俗資料のデータベース化とその活用～小学校3年社会科『古い道具と昔の暮らし』を中心に～」

研究の概要：エゾメ・洗濯板・炭火アイロン等の民俗資料についてエクセルでのデータベース作製とその活用、博物館のセカンドスクールの利用やゲストティーチャー・博物館学芸職員の活用を組み入れた授業実践。

7 館外活動

◇執筆（著書・論文など、「研究報告第40号」は除く）

新野 直吉	「古代における鳥海山信仰」 （鳥海山学術大会資料） 「年表で”読む”歴史」 （大潟村） 「柵跡との出会」 （払田柵跡調査事務所設立40周年記念誌） 「由利本荘市誌に寄せて」 （由利本荘誌） 「秋田人の立場で観、感じた安藤昌益」 （『秋大史学』61号）
吉川耕太郎	「東北地方における旧石器時代の年代と編年」 （『旧石器研究』第10号） 「多様な石器を生み出す石材・頁岩の多目的利用」 （季刊考古学別冊21『縄文の資源利用と社会』） 「コメントにかえてー東北地方の原産地遺跡ー」 （中・四国旧石器文化） 「上岩川遺跡群」 （『アルカ通信』138号） 「秋田県の珪質頁岩調査」 （石材のつどいニュース）
畑中 康博	「秋田藩維新史における「砲術所藩士活躍説」の誕生」 （渡辺英夫編『秋田の近世近代』高志書院） 「明智光秀の書状」 （『楽園』27号）
新堀 道生	「秋田藩重臣岡本家の家計」 （渡辺英夫編『秋田の近世近代』高志書院）

◇講演、講座など

新野 直吉	「白谷は新屋か」 （西部地域住民自治協議会） 「古代東北の英雄阿豆流爲」 （東北文化学園大学） 「払田柵調査事務所設立前史」 （事務所設立40周年記念講演会） 「秋田人の立場で感じ観た安藤昌益」 （第29回国民文化祭基調講演）
吉川耕太郎	「縄文時代における珪質頁岩の多目的利用」 （秋田県石器文化研究会） 「だけじゃない田沢湖！縄文時代と黒曜石の話」 （田沢湖の生命を育む会） 「東北地方の縄文時代における石器の変遷」 （秋田県石器文化研究会） 「旧石器時代のハンターの道具」 （仙台市地底の森ミュージアム） 「旧石器人類の進化と芸術性の獲得&ギャラリートーク」 （大館郷土博物館） 「秋田地域の石器・石材流通の実態」 （山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館）
松山 修	「菅江真澄の見た飢饉～津軽と秋田と」 （県生涯学習センター講座） 「菅江真澄、旅日記の読み方～津軽での記録」 （NPO白山山地を守る会〈青森県〉）

	「真澄研究における『松藤日記』の価値」 (八峰町歴史講演会)
船木 信一	「郷土学ベーシック講座 秋田の自然」 (秋田県立御所野学院高校) 岩手県立博物館テーマ展「クマガラの世界」 対談講演会
畑中 康博	「秋田の歩き方入門」 (秋田県立大学) 「秋田藩戊辰戦争史の群像」 (久保田城址歴史案内ボランティアの会) 「守屋家資料の世界」 (大森町郷土研究会)
	「古文書からの発見－幕末秋田藩の世界－」 (秋田の史跡を学ぶ会)
	「奥羽列藩同盟と戊辰戦争」 (秋田県生涯学習センター 美の国アクティ ブカレッジ)
	「幕末秋田藩の歴史」 (中央ナイスミドルカレッジ)
新堀 道生	「古文書の世界」 (秋田市高齢者学級) 「風俗絵巻が描く秋田」 (秋田みるかネット)
丸谷 仁美	「花輪ばやしフォーラム」 (鹿角パークホテル)
	「秋田の歩き方入門」 (秋田県立大学)
浅利絵里子	「あきたの葉今昔物語」 (東京生薬協会学術講演会)

◇委員委嘱

新野 直吉	史跡弘田柵跡調査指導研究会委員 (委員長) 大潟村村史編纂委員 (監修) 秋田城跡整備委員会委員 (委員長) 史跡秋田城跡保存管理計画策定指導委員会 委員 (会長) 後三年合戦 (役) 等関連遺跡整備指導委員 会特別委員 秋田大学附属中学校評議委員 由利本荘市誌編纂委員 (監修)
吉川耕太郎	日本考古学協会全国埋蔵文化財保護対策委 員 秋田県考古学協会役員
渡部 均	秋田県環境教育等推進協議会委員
船木 信一	大潟村干拓博物館博物館協議会委員 農林水産省八郎潟地区環境配慮調査環境ア ドバイザー (鳥類)
梅津 一史	国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー 秋田県版レッドデータブック改訂検討委員 会委員
畑中 康博	大仙市公文書館設置懇話会委員
新堀 道生	「秋田県の仏像と寺社什物」文化財収録作 成調査委員 「秋田の近現代史副教材」作成委員
丸谷 仁美	鹿角市有形民俗文化財調査委員



資

料

I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (平成27年4月1日現在)

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,698	450	13,219	8,447	2,624	9,547	101,234	15,465	5,053	2,200	161,937

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財 (絵画)
県	工芸	工芸第40号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第34号	鐺 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第53号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第62号	鐺 (あやめ図透彫) 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料 (刀剣類ほか)	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財 (工芸)
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保 字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 (枯草坂古墳出土)	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器 (沢田遺跡出土)	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財 (考古資料)
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村 田子内上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財 (考古資料)
県	歴史	歴史資料第6号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	歴史資料第7号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財 (建造物)
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物	5-3-0001	田沢湖のクニマス (標本)	1点	平成20. 7.28	登録記念物

Ⅱ 歴代館長、特別展等一覧

名譽館長

新野直吉	平成12年4月～
------	----------

歴代館長

佐藤文夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷辰雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈良修介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠山芳郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉藤長	昭和64年1月～平成元年3月
佐藤巖	平成元年4月～平成3年8月
橋本顕信	平成3年9月～平成4年3月
近藤貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高橋彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新野直吉	平成9年4月～平成12年3月

富樫泰時	平成12年4月～平成15年3月
佐々田亨三	平成15年4月～平成17年6月
三浦憲一	平成17年6月～平成18年3月
沢井範夫	平成18年4月～平成20年3月
佐々木義幸	平成20年4月～平成21年3月
鈴木幸一	平成21年4月～平成22年3月
荒川恭嗣	平成22年4月～平成23年3月
神馬洋	平成23年4月～平成25年3月
風登森一	平成25年4月～平成27年3月
佐々木人美	平成27年4月～

特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓－山と人－
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿－水とくらし－
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼

平成8年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
9年11月	特別展	日本のわざと美
10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ
12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術
16年9月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年7月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年7月	特別展	あきた大鉄道展
26年9月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし

Ⅲ 秋田県立博物館条例

(昭和50年 3月12日公布
昭和50年 5月 1日施行
平成24年 4月 1日最終改正)

(設置)

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館(以下「博物館」という。)を秋田市金足鳩崎字後山52番地に設置する。

(職員)

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(博物館協議会)

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(入場料等の徴収)

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

(入館料等の減免)

第5条 知事は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の不還付)

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

(施行規定)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1(第4条関係)

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

別表第2(第4条関係)

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,700円
	半 日 5,850円
学 習 室	1 日 3,500円
	半 日 1,750円

IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。
- 五 秋田県立博物館協議会に関すること。

◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

（休館日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

V 入館者に関する資料

(1) 入館者数内訳

平成25年度

総入館者数 103,393人

有料展示

あきた大鉄道展

平成26年度

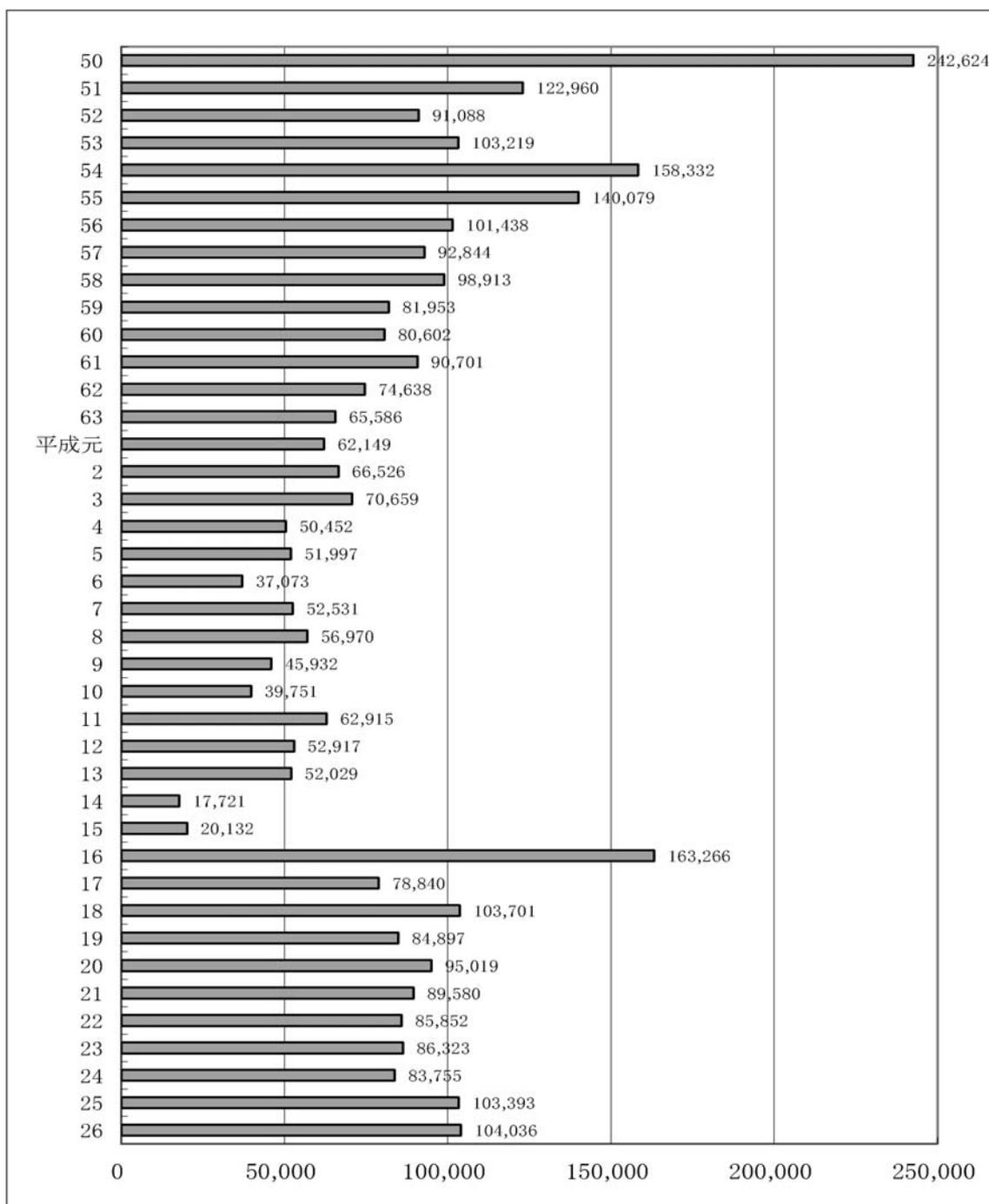
総入館者数 104,036人

有料展示

菅江真澄、旅のまなざし

(2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 3,363,393人（平成26年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利用案内～

開館時間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休館日 ・月曜日
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)
・年末年始
(12月28日～1月3日)
・燻蒸消毒の期間
平成27年度は6月29日(月)～7月6日(月)

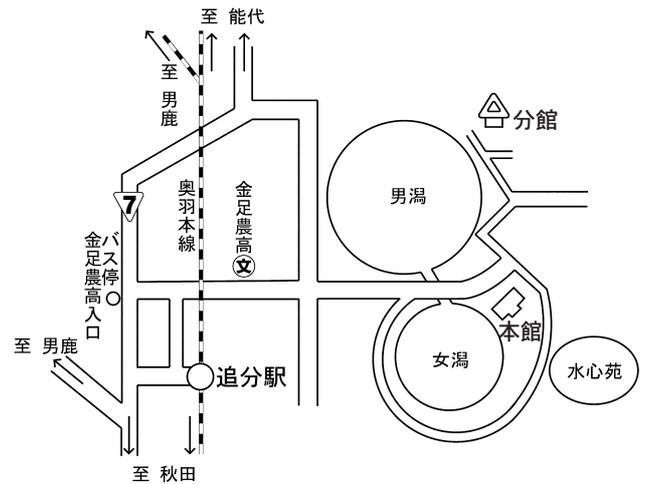
入館料

通常料金 無料
平成11年4月1日から、博物館の入館料が無料になりました(本館・分館とも)。
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使用料

区分	金額
講堂	1日 11,700円
	半日 5,850円
学習室	1日 3,500円
	半日 1,750円

～交通案内～



本館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分
車：秋田自動車道 昭和男鹿半島 I C より10分
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

分館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩35分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

平成27年6月発行
〒010-0124
秋田市金足鳩崎字後山52
秋田県立博物館
TEL 018-873-4121
FAX 018-873-4123
